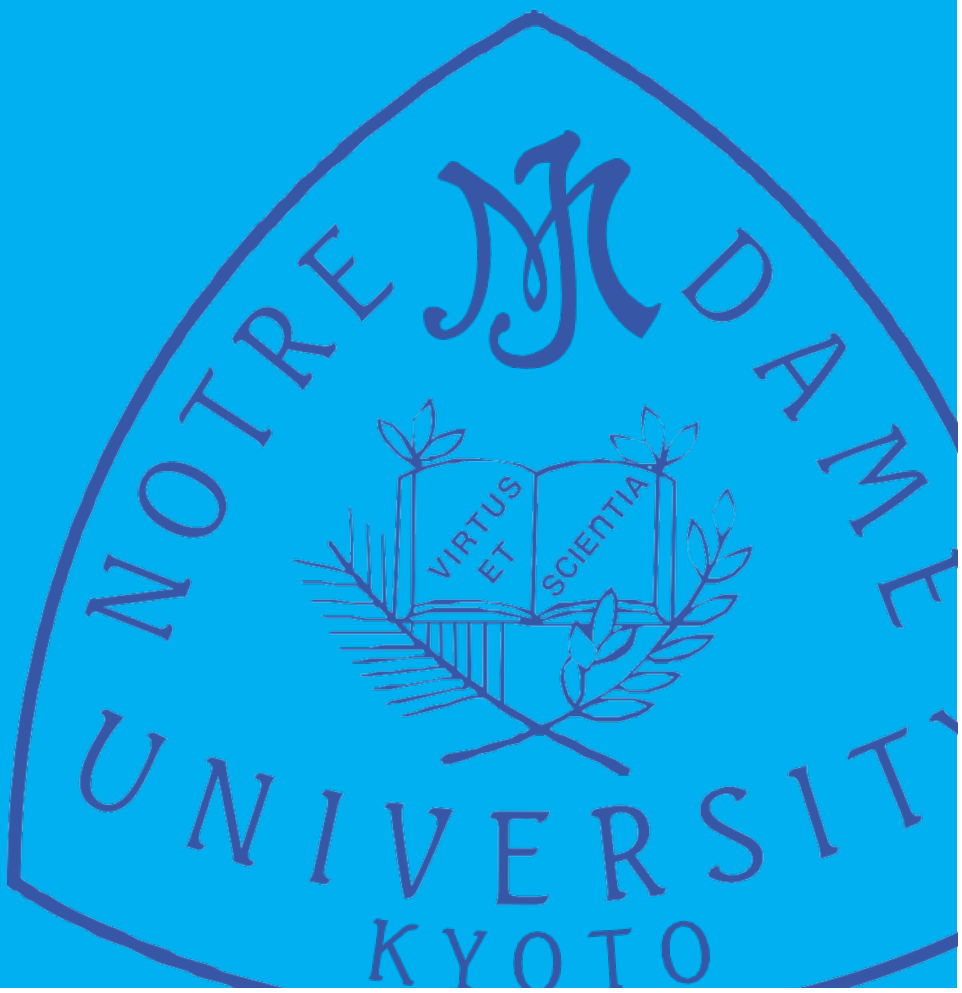
2018(平成30)年度

FD報告書

京都ノートルダム女子大学



はじめに

本学は、2017（平成 29）年 4 月に生活福祉文化学部と心理学部での学びを発展・統合させるかたちで、福祉生活デザイン学科・心理学科・こども教育学科の 3 学科からなる「現代人間学部」を開設しました。また 2019（平成 31）年 4 月には、人間文化学部が「国際言語文化学部」に名称変更しました。この国際言語文化学部は、英語英文学科と国際日本文化学科（人間文化学科からの名称変更）の 2 学科からなり、主として英語と日本語の能力の伸長を目指したカリキュラムを充実させることにより、国際社会で活躍できる幅広い教養と文化を身につけた人材を養成します。このような大学の変革・発展にあわせて、FD 活動が充実したものとなるよう、今年度は以下のような事業を企画し、実施しました。

1．授業評価アンケートは、今年度から学部の全科目について、これまでのアンケート用紙という紙媒体による実施から、教育支援システム（manaba）を利用したオンラインによる実施に切り替わりました。これに伴って、授業評価アンケートの実施は「徳と知教育センター」と教務課が担うことになり、FD 委員会はアンケート結果の活用方法の検討に特化して活動することになりました。従来どおり、今年度も学部生による授業評価アンケートは前期と後期に実施され、大学院生による教育評価アンケートも後期に実施されました。結果の活用については本報告書にあるように、様々に提案がなされています。新規に導入されたオンライン実施による利点・問題点等を含め、今後も引き続き結果の活用方法について議論を重ねていくことになります。
2．研修会については、今年度は前期と後期に各 1 回を実施しました（うち、後期は全学 FD 教員研修会）。教員の要望の多いテーマに絞り、学内外の講師のもとでアクティブラーニングと学習評価について学びました。
3．オープンクラスは、原則、全ての学部授業を公開とし、いずれも 2 週間をオープンクラスウィークとして、教職員や学生が自由に授業を参観できる機会を準備しました。また、参観者からのコメントを被参観の教員にフィードバックすることで、授業改善の一助となるようにしました。
4．外部講演会や研修会等についても、情報提供を折々に行い、教職員への FD への啓発活動を行いました。また、本学は公益財団法人 大学コンソーシアム京都の加盟校であることから、大学コンソーシアム京都の開催する FD フォーラムにも積極的に関与してきました。今年度も、第 23 回の FD フォーラム「大学におけるダイバーシティ」のテーマのもと、FD 委員会委員が分科会「特別支援学校教員養成における主体的な学修と地域連携の在り方について」をコーディネートして、全国に向けた FD 活動の普及や情報発信、関係機関との交流・連携の機会を持ちました。

以上のような活動を本報告書としてまとめました。掲載されている様々なデータから、

本学の教育活動の現状を読み取ることができます。また、FD 委員が執筆を担当した部分では、今後の課題についても言及しています。ご一読を賜り、本学の教育・研究の更なる発展と向上に役立てていただけるよう、お願いを申し上げます。時代の変化にも対応しつつ、教職員一同が継続的に FD 活動に取り組んで行けるよう、FD 委員会は今後も様々な活動を推進して参ります。

2018 年（平成 30 年）3 月

京都ノートルダム女子大学
FD 委員会委員長　向山泰代

2018（平成 30）年度　FD 報告書

目　次

はじめに・・1
目次・・・3
Ⅰ　2018（平成 30）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告・・・・・・・・・・・・ 4
1.　実施目的・・ 4
2.　実施方法・・ 4
3.　「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題・・・・・ 7
4.　集計結果・・ 9
（1）【全学部】・・ 9
（2）【開講所属別】
1）共通教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
2）英語英文学科専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
3）人間文化学科専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
4）現代人間学部共通科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
5）福祉生活デザイン学科専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
6）生活福祉文化学部専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
7）心理学科専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
8）心理学部専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
9）こども教育学科専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
10）資格科目等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
Ⅱ　2018（平成 30）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告・・・・・・・・・・30
1.　実施目的・・ 30
2.　実施方法・・ 30
3.「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題・・・・・32
4.　集計結果表・・ 33
（1）【全研究科】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
（2）【研究科別】　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
1）人間文化研究科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
2）心理学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
（3）【専攻別】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
1）心理学研究科　発達・学校心理学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
2）心理学研究科　臨床心理学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
Ⅲ　2018（平成 30）年度「オープンクラス」実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
Ⅳ　2018（平成 30）年度「FD 研修会」実施報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
Ⅴ　2018（平成 30）年度「全学 FD 教員研修会」実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・・41
Ⅵ　大学コンソーシアム京都　第 24 回 FD フォーラム第５分科会　実施報告・・・・・・・・・42
2018（平成 30）年度 FD 委員会構成員・奥付・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

Ⅰ　2018（平成 30）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

１．実施目的

「学生による授業評価アンケート」は、学生の意見を参考にすることで、本学の教育内容や教育方法等の課題を明確にし、教育の質的な向上を図ることを目的に、2008（平成 20）年度から継続的に実施されている。

２．実施方法

１）実施期間

前期は、2018（平成 30）年 7 月 17 日(火)～7 月 30 日(月)、後期は、2019（平成 30）年 1 月 8 日(金)～1 月 28 日(月)に実施した。今年度からの「学生による授業評価アンケート」は、従来のように紙を配布するのではなく、授業支援システム manaba を利用して、学生がオンライン入力する方法で実施した。

２）対象科目・調査対象者

対象科目：2018（平成 30）年度に学部にて開講されている授業科目
（一部の学外実習科目等を除く）

対象者：対象科目の履修生

３）実施科目数・回収率

開講所属ごとの実施状況は下のとおりである。なお、2018（平成 30）年度は開講所属が 10 の分類に分かれている。これは 2017（平成 29）年度から現代人間学部の 3 つの学科（心理学科、こども教育学科、福祉生活デザイン学科）のそれぞれの新カリキュラムが始まったことによる。

旧カリキュラムの科目は、生活福祉文化学部専門科目と心理学部専門科目に分類されており、2018（平成 30）年度は、3 年次生と 4 年次生のみが履修した。

開講所属	対象科目数 (a)	アンケート回答があった科目数 (b)	アンケート回答がなかった科目数 (a-b)	実施率	授業評価アンケート実施科目回答状況		
					対象科目履修者数	回答数	回答率
共通教育科目	243	214	29	88.1%	5,862	2,441	41.6%
現代人間学部共通科目	4	4	0	100.0%	363	125	34.4%
英語英文学科専門教育科目	212	176	36	83.0%	3,773	1,496	39.7%
人間文化学科専門教育科目	122	96	26	78.7%	1,711	729	42.6%
心理学科専門科目	39	38	1	97.4%	1,973	723	36.6%
こども教育学科専門科目	72	68	4	94.4%	2,042	998	48.9%
福祉生活デザイン学科専門科目	84	79	5	94.0%	1,682	557	33.1%
生活福祉文化学部専門教育科目	121	69	52	57.0%	1,053	366	34.8%
心理学部専門教育科目	109	45	64	41.3%	1,163	386	33.2%
資格科目等	61	49	12	80.3%	908	315	34.7%
計	1067	838	229	78.5%	20,530	8,136	39.6%

４）調査内容（学部）

最初に、回答者の属性（学年・所属学部（学科））を尋ね、次に当該科目に関して「授業の状況」「学習の状況」「学習成果（ND6)」「授業形態項目」「独自設定項目」について尋ねた。設問数は、選択式 16 問　自由記述 2 問である。調査項目の一覧は以下のとおりである。

当該科目に関する調査項目と回答形式

（１）調査項目

［授業の状況］

(1)授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった

(2)授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった

(3)成績評価の仕方が明確に示されていた

(4)教員の話し方は、わかりやすかった

(5)教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた

(6)授業は興味関心の持てる内容であった

(7)授業の教室の広さや設備などは適切であった

［学習の状況］

(8)授業の内容は理解できた

(9)やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった

(10)この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学修しましたか

〔5(4 時間以上)、4(2～4 時間未満)、3(1～2 時間未満)、2(30 分～1 時間未満)、1(30 分未満)、0（0 分)〕

［学習成果］（4 年間で育てたい力　ND6）本学では卒業時に身につけておくべき 6 つの力「ND6」を定めています。

(11)この授業で、「自分を育てる力」が向上した

(12)この授業で、「知識・理解力」が向上した

(13)この授業で、「言語力」が向上した

(14)この授業で、「思考・解決力」が向上した

(15)この授業で、「共生・協働する力」が向上した

(16)この授業で、「創造・発信力」が向上した

［独自設定項目］

(17) 担当教員が、独自に設定した項目

［自由記述］

・この科目（授業）について、面白いと感じた点や学びが促進された点、授業を進める中でよかったと感じた点を記入してください（回答にあたっては、「よかった」「悪かった」の印象を書くのではなく、「○○が○○なので○○と感じた」など、なるべく具体的に書いてください)。

・この科目（授業）について、工夫すべき点、改善してほしい点があれば、具体的に記入してください（回答にあたっては、「よかった」「悪かった」の印象を書くのではなく、「○○が○○なので○○と感じた」など、なるべく具体的に書いてください)。

（２）回答形式

評価項目(1)～(16)ついては、以下の６件法で回答させた。

5：そう思う

4：どちらかと言えばそう思う

3：どちらとも言えない

2：どちらかと言えばそう思わない

1：そう思わない

0：該当しない

５）実施手順

授業評価アンケートは、今年度より徳と知教育センターが教務課と協力して実施した。実施にあたっては、徳と知教育センター事務室が非常勤講師を含む各科目の担当教員に対し、授業支援システム manaba を利用して実施するようメールにて依頼した。

アンケート実施期間中の授業において、教員が学生に対してスマートフォンやパソコンから manaba にログインしてオンラインで返答するようアナウンスし、アンケートが実施された。教員が授業中にアナウンスしなかった科目についても、学生が manaba にログインすれば回答できた。

６）結果の集計

結果は manaba で自動的に集計されるため、アンケート実施直後から、教員が manaba にログインして閲覧することができた。

７）集計結果の教員への周知

アンケート実施直後から、担当教員は担当科目の集計結果を manaba にログインすれば閲覧できることを、徳と知教育センター事務室が各科目の担当教員にメールで連絡した。

8）集計結果の公表と教育改善への活用

科目ごとのアンケート集計結果（自由記述を除く）は、科目および、開講所属ごとに PDF ファイルにまとめ、学内 Web(Desknet’s)「文書管理」の「徳と知教育センター」のフォルダに掲載した。

教員はアンケート実施直後から閲覧できる、manaba による集計データや自由記述項目に記載された内容をもとに授業について点検し、改善に向けた今後の取り組みについてフィードバックを行った。そのフィードバックの内容は、manaba の授業評価アンケートの部分に「結果・フィードバック」として、担当教員が書き込んだ。この教員によるフィードバックの内容は、当該科目の受講生が閲覧することができる。

このアンケート結果の教育改善活動として、以下が予定されている。ただし、2018（平成 30）年度は紙を使用した従来のアンケートの実施形態を manaba に変更した初年度であったため、2019（平成 31）年 3 月現在、以下の作業は進行中である。

1）manaba の即時性を活かし、共通教育科目は徳と知教育センターおよびセンター会議で検討し、学科専門科目は FD 委員会委員および学部長、学科主任が閲覧し、授業改善の検討材料とする。

2）教務課に授業評価アンケートの結果を伝達し、その内容を教務委員会において報告する。

3）課長会において、授業評価アンケートから抽出された、主に設備面の問題点を関係部局へ伝達し、対策が可能な範囲で配当教室や設備整備の対策を行う。

3.「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

全学のアンケート集計において「授業の状況」の 7 項目すべて、全学平均が 4.1 点以上あり、高い数値を示している。「学習の状況」でも、(8)「授業の内容は理解できた」の項目で 4.1 点、また(9)「やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった」では 4.5 点と高い数値を示している。その一方で、(10)「この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学修したか」の設問では 1.7 点であり、例年と同様、学修時間が 1 週間あたり平均 1 時間未満という低い数値となっている。「全く学修しなかった」と返答した学生の割合も、平均で 22.2%と高い。一方、「学習成果（4 年間で巣立てたい力　ND6)」では、各項目で 3.6 点以上あり、その中でも(12)「知識・理解力が向上した」は 4.2 点と高い数値となっている。

開講所属別のアンケート結果では、各学部学科の結果は全学の数字とほぼ同じであるが、唯一、「英語英文学科専門教育科目」の「学習の状況」(10)の学修時間が 2.2 点を示しており、全学平均の 1.7 点より 0.5 点も高い数値を示している。これは英語英文学科の学生が、授業以外の学修時間が長い傾向の表れであろう。「資格科目等」の「授業の状況」では、(2)～(7)のすべてが全学平均よりも 0.1～0.3 点、低い結果を示していた。さらに「資格科目等」の(10)の学修時間は、全学平均よりも 0.1 点高い数値を示しているにもかかわらず、「学習の状況」の(8)の授業の内容が理解できたかどうかの質問の返答が全学平均より 0.3 点も低かった。

以上のように今年度のアンケート結果の数字は、概ね前年と同様の結果となった。特に前年と同様に、自学自習に費やす時間が少ないという点が目立っており、授業時間外の学習時間については、全学的な対策が必要だろう。

今年度は manaba を使ってオンラインで実施した初年度という事もあり、回答数が対象科目履修者数 20,530 中 8,136 と、昨年度までの 80%と比較してほぼ半分の 39.6% のみであった。来年度以降の回答率を上げる努力も含めて、授業評価アンケートの実施方法、活用方法を含めた根本的な議論を継続することが望ましいであろう。

文責：　吉田　智子　（人間文化学科　FD 委員／徳と知教育センター　副センター長）

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　全学部

京都ノートルダム女子大学

集計単位	全学部		
履修者数	20530	全科目数	1067
回答者数	8136	実施科目数	838
対象者数	20530		

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	941	688	317	112		2058
		45.0%	42.2%	33.5%	22.6%		39.4%
	人間文化学科	739	270	283	78		1370
		58.7%	42.7%	30.9%	25.4%		43.5%
生活福祉文化学部				451	78		529
				33.8%	20.7%		30.9%
心理学部				581	192		773
				32.4%	25.6%		30.4%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	408	277				685
		36.9%	33.9%				35.6%
	心理学科	823	372				1195
		50.2%	30.8%				42.0%
	こども教育学科	1008	492				1500
		54.8%	40.8%				49.3%
科目等履修生						0	0
						0.0%	0.0%
その他						26	26
						54.2%	54.2%
合計		3919	2099	1632	460	26	8136
学年別回答率		49.4%	38.2%	32.7%	22.4%	54.2%	39.6%

※Q10以外　5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない　2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（１）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.4	59.3%	28.8%	7.9%	1.3%	1.0%	0.5%			0.842
Q2	（２）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.2	53.4%	27.8%	10.0%	3.9%	2.9%	0.8%			1.078
Q3	（３）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.2	51.9%	29.3%	11.3%	3.4%	2.0%	0.9%			0.969
Q4	（４）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.2	52.3%	27.5%	10.3%	4.6%	3.5%	0.2%			1.078
Q5	（５）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.2	49.2%	29.5%	12.3%	4.2%	3.3%	0.4%			1.046
Q6	（６）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.1	47.8%	28.9%	13.0%	4.6%	3.9%	0.4%			1.106
Q7	（７）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.5	63.8%	24.3%	6.1%	2.7%	1.3%	0.3%			0.860

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（８）授業の内容は理解できた。	4.1	44.3%	35.3%	11.8%	4.3%	2.5%	0.4%			1.022
Q9	（９）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.5	68.0%	18.1%	6.4%	3.3%	1.9%	1.0%			1.061
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.7	4.3%	6.4%	15.8%	22.3%	27.5%	22.5%			1.377

【学習成果（４年間で育てたい力　ND6）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.9	37.9%	29.4%	20.5%	3.7%	4.1%	2.6%			1.244
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.2	46.5%	33.3%	12.6%	2.4%	2.5%	1.2%			1.053
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.7	33.0%	27.3%	23.3%	5.4%	4.9%	4.4%			1.364
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	3.9	37.2%	32.6%	18.3%	3.8%	3.5%	2.7%			1.219
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.6	31.2%	28.0%	23.7%	5.1%	5.5%	4.5%			1.398
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.7	32.2%	28.9%	23.9%	4.4%	5.0%	4.0%			1.335

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	共通教育科目

履修者数	5862	全科目数	243
回答者数	2441	実施科目数	214

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	313	101	49	25		488
		47.4%	36.5%	31.2%	21.4%		39.9%
	人間文化学科	438	71	45	20		574
		57.2%	42.3%	23.4%	21.3%		46.5%
生活福祉文化学部				32	4		36
				27.4%	8.7%		22.1%
心理学部				63	38		101
				27.4%	23.0%		25.4%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	242	42				284
		39.2%	28.4%				37.1%
	心理学科	384	75				459
		47.1%	28.6%				42.6%
	こども教育学科	396	88				484
		54.3%	39.8%				50.9%
科目等履修生						0	0
その他						15	15
						57.7%	57.7%
合計		1773	377	189	87	15	2441
学年別回答率		49.4%	35.0%	27.1%	3.6%	57.7%	100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

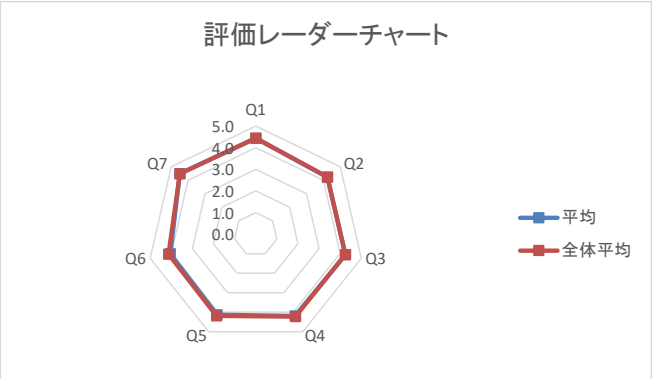
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（1）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.4	1470	645	206	41	25	17	2404		0.891
			60.2%	26.4%	8.4%	1.7%	1.0%	0.7%			
Q2	（2）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.2	1333	630	244	92	75	31	2405		2.232
			54.6%	25.8%	10.0%	3.8%	3.1%	1.3%			
Q3	（3）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.3	1283	682	281	84	50	19	2399		0.946
			52.6%	27.9%	11.5%	3.4%	2.0%	0.8%			
Q4	（4）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.2	1263	641	265	119	97	3	2388		1.115
			51.7%	26.3%	10.9%	4.9%	4.0%	0.1%			
Q5	（5）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.1	1179	672	336	112	96	8	2403		0.965
			48.3%	27.5%	13.8%	4.6%	3.9%	0.3%			
Q6	（6）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.0	1116	670	357	120	121	11	2395		1.085
			45.7%	27.4%	14.6%	4.9%	5.0%	0.5%			
Q7	（7）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.5	1564	592	141	65	29	7	2398		1.080
			64.1%	24.3%	5.8%	2.7%	1.2%	0.3%			

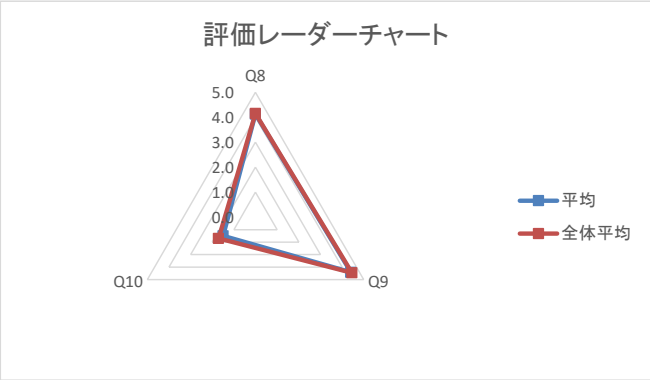
【学習の状況】

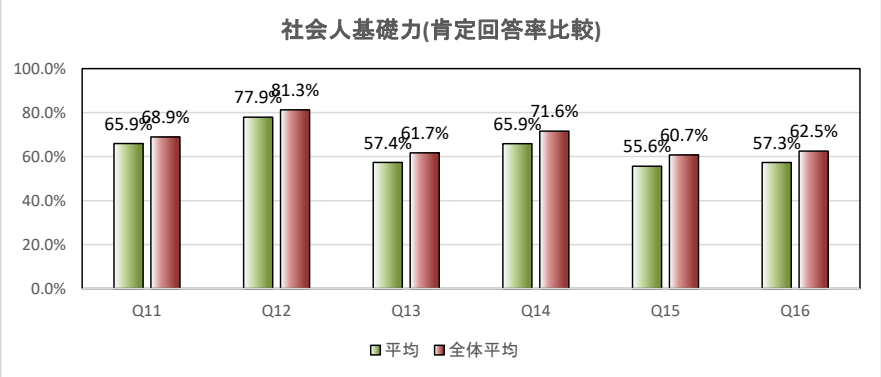
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（8）授業の内容は理解できた。	4.1	1102	802	297	110	75	12	2398		1.162
			45.1%	32.9%	12.2%	4.5%	3.1%	0.5%			
Q9	（9）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.4	1633	416	171	102	51	31	2404		0.859
			66.9%	17.0%	7.0%	4.2%	2.1%	1.3%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.5	78	120	346	495	694	665	2398		1.051
			3.2%	4.9%	14.2%	20.3%	28.4%	27.2%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.8	886	688	520	112	114	67	2387		1.138
			36.3%	28.2%	21.3%	4.6%	4.7%	2.7%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.1	1102	769	350	79	66	35	2401		1.340
			45.1%	31.5%	14.3%	3.2%	2.7%	1.4%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.5	792	581	569	168	159	125	2394		1.279
			32.4%	23.8%	23.3%	6.9%	6.5%	5.1%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	3.8	856	717	509	111	105	90	2388		1.116
			35.1%	29.4%	20.9%	4.5%	4.3%	3.7%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.5	699	631	623	143	170	125	2391		1.488
			28.6%	25.9%	25.5%	5.9%	7.0%	5.1%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.6	735	638	646	120	145	111	2395		1.313
			30.1%	26.1%	26.5%	4.9%	5.9%	4.5%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
65.9%
68.9%
77.9%
81.3%
57.4%
61.7%
65.9%
71.6%
55.6%
60.7%
57.3%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	英語英文学科専門教育科目

履修者数	3773	全科目数	212
回答者数	1496	実施科目数	176

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	607	569	238	64		1478
		43.2%	44.0%	32.6%	24.3%		39.6%
	人間文化学科	1	1	1	1		4
		100.0%	100.0%	50.0%	25.0%		44.4%
生活福祉文化学部				0	0		0
				0.0%			0.0%
心理学部				4	4		8
				80.0%	57.1%		66.7%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	1				1
		0.0%	100.0%				33.3%
	心理学科	2	0				2
		50.0%	0.0%				33.3%
	こども教育学科	1	1				2
		100.0%	100.0%				100.0%
科目等履修生						0	0
その他						1	1
						100.0%	100.0%
合計		611	572	243	69	1	1496
学年別回答率		43.2%	44.1%	32.9%	4.6%	100.0%	100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

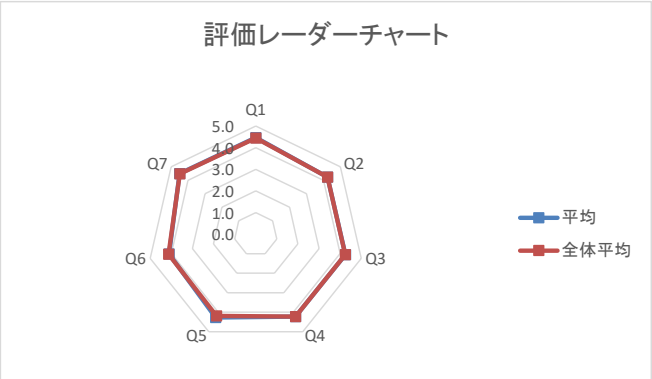
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（１）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.5	926	397	102	22	23	5	1475		0.902
			61.9%	26.5%	6.8%	1.5%	1.5%	0.3%			
Q2	（２）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.2	813	391	140	67	47	11	1469		0.155
			54.3%	26.1%	9.4%	4.5%	3.1%	0.7%			
Q3	（３）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.2	813	388	163	58	36	15	1473		0.824
			54.3%	25.9%	10.9%	3.9%	2.4%	1.0%			
Q4	（４）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.2	806	367	162	74	46	7	1462		1.166
			53.9%	24.5%	10.8%	4.9%	3.1%	0.5%			
Q5	（５）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.3	810	405	151	55	44	5	1470		1.022
			54.1%	27.1%	10.1%	3.7%	2.9%	0.3%			
Q6	（６）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.1	726	399	188	79	67	6	1465		1.204
			48.5%	26.7%	12.6%	5.3%	4.5%	0.4%			
Q7	（７）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.5	980	331	88	35	25	4	1463		1.067
			65.5%	22.1%	5.9%	2.3%	1.7%	0.3%			

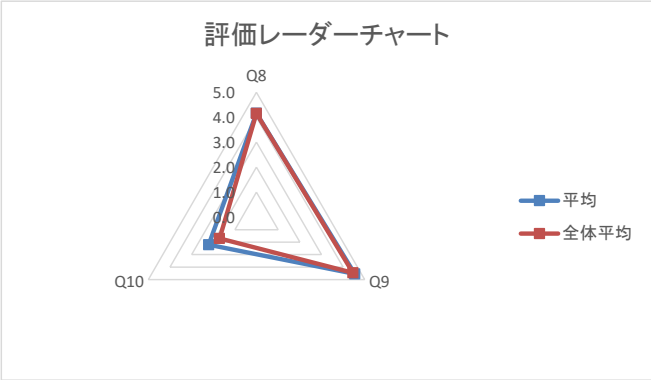
【学習の状況】

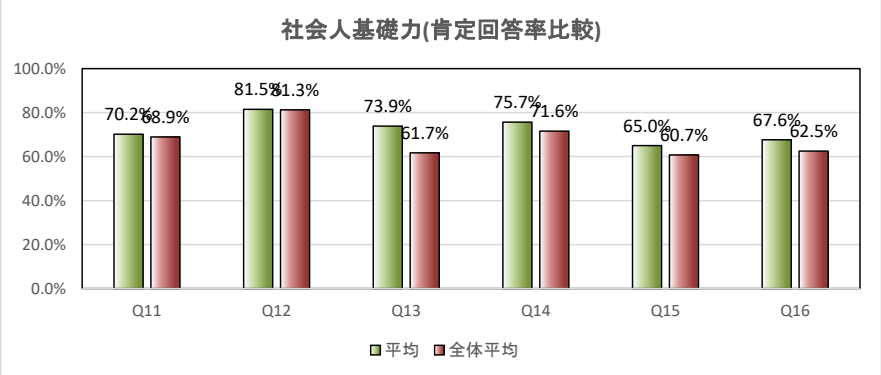
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（８）授業の内容は理解できた。	4.2	699	485	162	72	45	5	1468		1.230
			46.7%	32.4%	10.8%	4.8%	3.0%	0.3%			
Q9	（９）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.5	1073	227	98	36	24	9	1467		0.936
			71.7%	15.2%	6.6%	2.4%	1.6%	0.6%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	2.2	126	145	284	429	340	149	1473		1.145
			8.4%	9.7%	19.0%	28.7%	22.7%	10.0%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	4.0	648	378	296	60	58	22	1462		0.950
			43.3%	25.3%	19.8%	4.0%	3.9%	1.5%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.2	756	437	184	33	38	16	1464		1.470
			50.5%	29.2%	12.3%	2.2%	2.5%	1.1%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	4.0	677	400	238	57	59	27	1458		1.250
			45.3%	26.7%	15.9%	3.8%	3.9%	1.8%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	4.0	637	467	231	54	46	24	1459		1.154
			42.6%	31.2%	15.4%	3.6%	3.1%	1.6%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.8	549	402	325	74	73	40	1463		1.244
			36.7%	26.9%	21.7%	4.9%	4.9%	2.7%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.9	566	423	319	53	68	33	1462		1.197
			37.8%	28.3%	21.3%	3.5%	4.5%	2.2%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
70.2%
68.9%
81.5%
81.3%
73.9%
61.7%
75.7%
71.6%
65.0%
60.7%
67.6%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	人間文化学科専門教育科目

履修者数	1711	全科目数	122
回答者数	729	実施科目数	96

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	1	8	15	4		28
		33.3%	36.4%	51.7%	20.0%		34.6%
	人間文化学科	263	173	182	37		655
		61.9%	46.8%	32.3%	24.8%		42.8%
生活福祉文化学部				7	1		8
				70.0%	33.3%		61.5%
心理学部				8	6		14
				47.1%	37.5%		42.4%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	1				1
		0.0%	25.0%				20.0%
	心理学科	3	10				13
		50.0%	38.5%				40.6%
	こども教育学科	0	0				0
科目等履修生						0	0
その他						10	10
						55.6%	55.6%
合計		267	192	212	48	10	729
学年別回答率		61.4%	45.5%	34.2%	6.6%	55.6%	100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

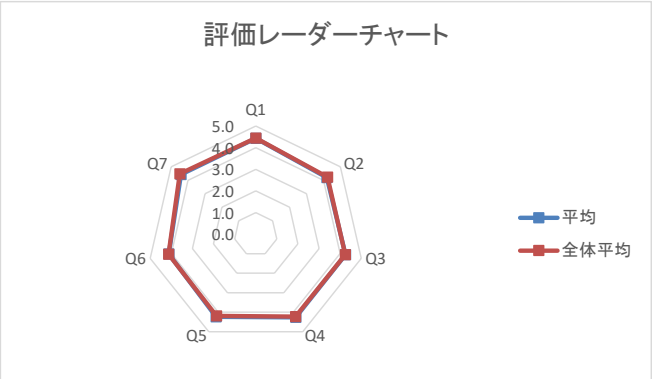
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（１）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.4	417	225	52	12	9	1	716		1.025
			57.2%	30.9%	7.1%	1.6%	1.2%	0.1%			
Q2	（２）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.2	375	208	77	29	24	5	718		0.753
			51.4%	28.5%	10.6%	4.0%	3.3%	0.7%			
Q3	（３）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.3	361	239	76	20	13	6	715		0.672
			49.5%	32.8%	10.4%	2.7%	1.8%	0.8%			
Q4	（４）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.3	387	206	66	42	15	1	717		1.009
			53.1%	28.3%	9.1%	5.8%	2.1%	0.1%			
Q5	（５）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.2	371	209	87	30	16	2	715		0.848
			50.9%	28.7%	11.9%	4.1%	2.2%	0.3%			
Q6	（６）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.1	344	209	94	43	26	0	716		0.825
			47.2%	28.7%	12.9%	5.9%	3.6%	0.0%			
Q7	（７）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.4	436	185	59	25	9	0	714		0.873
			59.8%	25.4%	8.1%	3.4%	1.2%	0.0%			

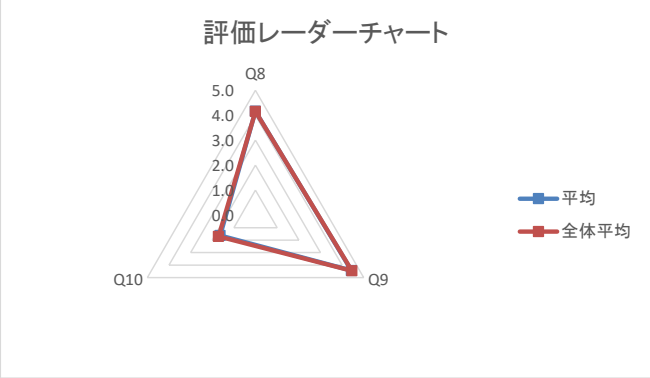
【学習の状況】

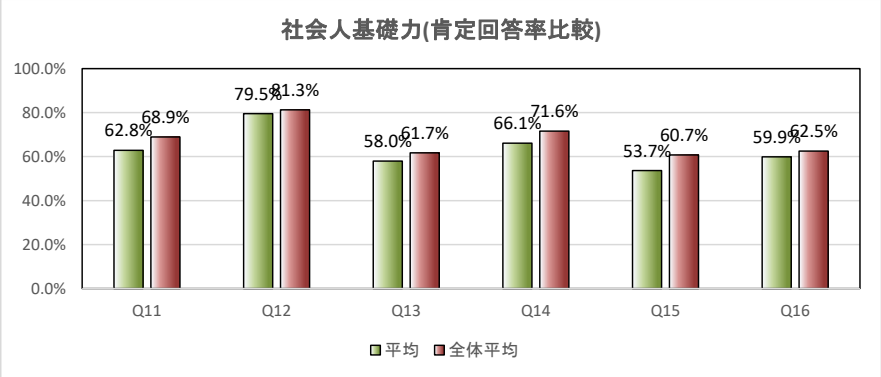
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（８）授業の内容は理解できた。	4.2	321	256	91	29	19	0	716		0.986
			44.0%	35.1%	12.5%	4.0%	2.6%	0.0%			
Q9	（９）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.4	471	161	45	16	18	7	718		0.800
			64.6%	22.1%	6.2%	2.2%	2.5%	1.0%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.6	29	40	112	173	185	178	717		0.841
			4.0%	5.5%	15.4%	23.7%	25.4%	24.4%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.7	239	211	171	24	53	18	716		0.958
			32.8%	28.9%	23.5%	3.3%	7.3%	2.5%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.1	332	239	83	24	35	5	718		1.341
			45.5%	32.8%	11.4%	3.3%	4.8%	0.7%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.6	226	189	183	36	53	29	716		1.254
			31.0%	25.9%	25.1%	4.9%	7.3%	4.0%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	3.7	243	227	144	30	50	17	711		1.009
			33.3%	31.1%	19.8%	4.1%	6.9%	2.3%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.4	202	180	178	53	56	43	712		1.344
			27.7%	24.7%	24.4%	7.3%	7.7%	5.9%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.6	235	195	176	29	56	27	718		1.193
			32.2%	26.7%	24.1%	4.0%	7.7%	3.7%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
62.8%
68.9%
79.5%
81.3%
58.0%
61.7%
66.1%
71.6%
53.7%
60.7%
59.9%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	現代人間学部共通科目

履修者数	363	全科目数	4
回答者数	125	実施科目数	4

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	0	0	0	0		0
	人間文化学科	0	0	0	0		0
生活福祉文化学部				0	0		0
心理学部				0	0		0
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	23	1				24
		26.7%	14.3%				25.8%
	心理学科	39	2				41
		31.0%	16.7%				29.7%
	こども教育学科	59	1				60
		45.4%	50.0%				45.5%
科目等履修生						0	0
その他						0	0
合計		121	4	0	0	0	125
学年別回答率		35.4%	19.0%		0.0%		100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

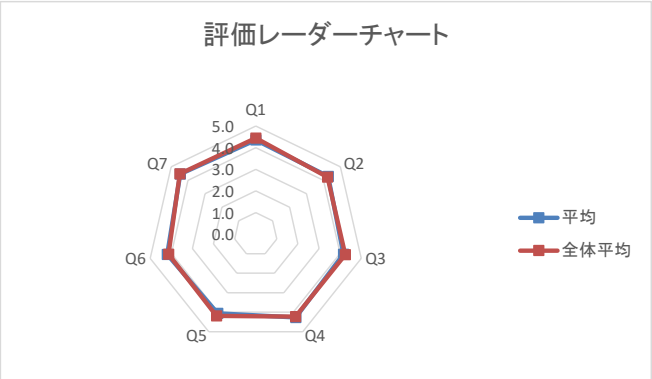
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（1）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.4	63	44	12	2	0	1	122		0.167
			50.4%	35.2%	9.6%	1.6%	0.0%	0.8%			
Q2	（2）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.3	61	49	7	2	1	3	123		1.044
			48.8%	39.2%	5.6%	1.6%	0.8%	2.4%			
Q3	（3）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.2	56	45	14	3	3	2	123		0.835
			44.8%	36.0%	11.2%	2.4%	2.4%	1.6%			
Q4	（4）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.3	56	52	9	5	0	1	123		0.960
			44.8%	41.6%	7.2%	4.0%	0.0%	0.8%			
Q5	（5）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.1	45	52	17	7	1	1	123		0.847
			36.0%	41.6%	13.6%	5.6%	0.8%	0.8%			
Q6	（6）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.2	60	44	8	6	4	1	123		0.966
			48.0%	35.2%	6.4%	4.8%	3.2%	0.8%			
Q7	（7）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.5	72	41	4	4	0	1	122		1.055
			57.6%	32.8%	3.2%	3.2%	0.0%	0.8%			

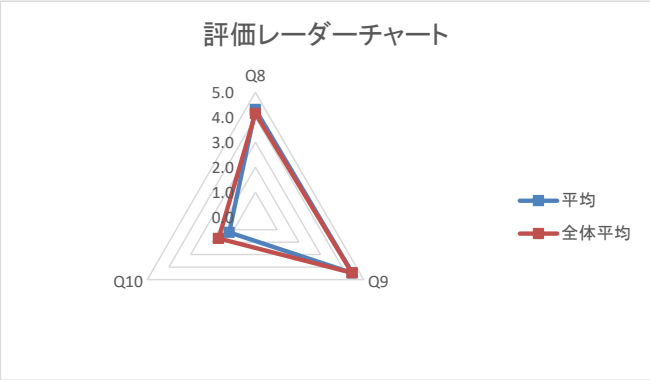
【学習の状況】

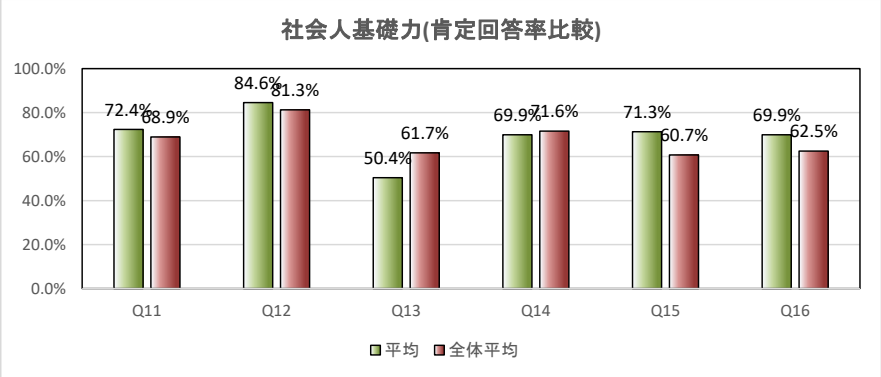
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（8）授業の内容は理解できた。	4.3	58	50	8	4	0	1	121		1.040
			46.4%	40.0%	6.4%	3.2%	0.0%	0.8%			
Q9	（9）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.5	82	29	3	3	5	0	122		0.938
			65.6%	23.2%	2.4%	2.4%	4.0%	0.0%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.2	3	1	9	30	44	36	123		0.907
			2.4%	0.8%	7.2%	24.0%	35.2%	28.8%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.9	41	48	23	4	4	3	123		1.065
			32.8%	38.4%	18.4%	3.2%	3.2%	2.4%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.2	51	53	14	3	0	2	123		1.066
			40.8%	42.4%	11.2%	2.4%	0.0%	1.6%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.3	25	37	36	13	4	8	123		1.212
			20.0%	29.6%	28.8%	10.4%	3.2%	6.4%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	3.8	38	48	26	5	2	4	123		1.124
			30.4%	38.4%	20.8%	4.0%	1.6%	3.2%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.8	34	53	20	5	6	4	122		1.375
			27.2%	42.4%	16.0%	4.0%	4.8%	3.2%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.7	33	53	23	5	5	4	123		1.315
			26.4%	42.4%	18.4%	4.0%	4.0%	3.2%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
72.4%
68.9%
84.6%
81.3%
50.4%
61.7%
69.9%
71.6%
71.3%
60.7%
69.9%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	福祉生活デザイン学科専門教育科目

履修者数	1682	全科目数	84
回答者数	557	実施科目数	79

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	0	0	2	0		2
				40.0%	0.0%		15.4%
	人間文化学科	0	1	1	2		4
			100.0%	50.0%	40.0%		50.0%
生活福祉文化学部				88	20		108
				29.5%	21.1%		27.5%
心理学部				20	7		27
				31.3%	33.3%		31.8%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	133	222				355
		34.5%	36.6%				35.8%
	心理学科	11	40				51
		52.4%	31.5%				34.5%
	こども教育学科	0	10				10
			24.4%				24.4%
科目等履修生						0	0
その他						0	0
						0.0%	0.0%
合計		144	273	111	29	0	557
学年別回答率		35.4%	35.2%	30.1%	5.2%	0.0%	100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

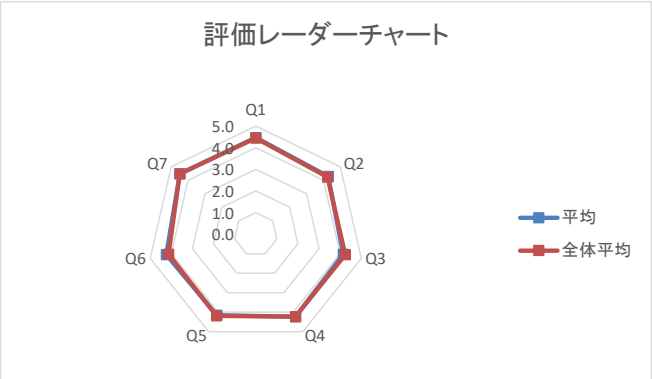
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（１）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.5	349	142	48	5	7	3	554		0.746
			62.7%	25.5%	8.6%	0.9%	1.3%	0.5%			
Q2	（２）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.3	312	155	45	25	15	4	556		0.957
			56.0%	27.8%	8.1%	4.5%	2.7%	0.7%			
Q3	（３）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.1	282	150	77	21	16	9	555		0.708
			50.6%	26.9%	13.8%	3.8%	2.9%	1.6%			
Q4	（４）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.2	313	136	51	19	28	3	550		0.993
			56.2%	24.4%	9.2%	3.4%	5.0%	0.5%			
Q5	（５）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.1	281	162	54	23	24	7	551		1.043
			50.4%	29.1%	9.7%	4.1%	4.3%	1.3%			
Q6	（６）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.2	306	149	55	17	23	4	554		1.025
			54.9%	26.8%	9.9%	3.1%	4.1%	0.7%			
Q7	（７）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.5	367	131	26	16	7	5	552		1.026
			65.9%	23.5%	4.7%	2.9%	1.3%	0.9%			

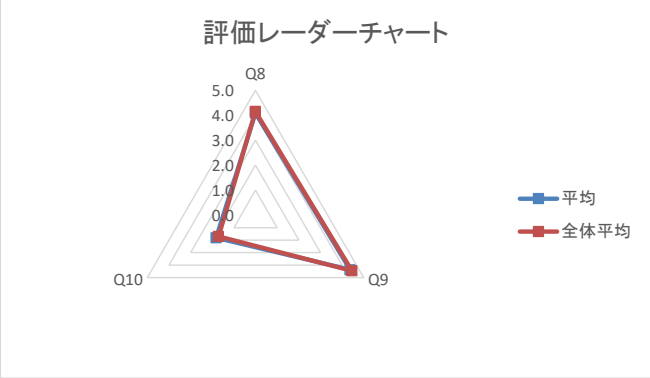
【学習の状況】

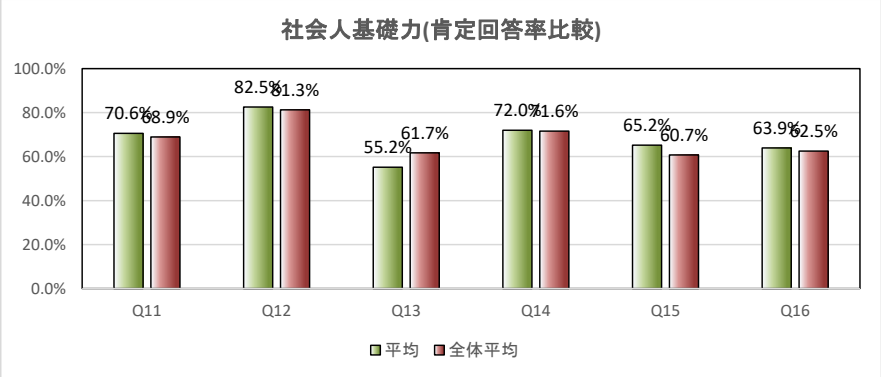
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（８）授業の内容は理解できた。	4.1	234	210	59	26	19	4	552		1.056
			42.0%	37.7%	10.6%	4.7%	3.4%	0.7%			
Q9	（９）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.4	360	110	44	21	13	7	555		0.976
			64.6%	19.7%	7.9%	3.8%	2.3%	1.3%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.8	26	56	100	108	135	127	552		1.029
			4.7%	10.1%	18.0%	19.4%	24.2%	22.8%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.9	210	176	101	13	26	21	547		1.152
			37.7%	31.6%	18.1%	2.3%	4.7%	3.8%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.2	266	188	58	8	11	19	550		1.404
			47.8%	33.8%	10.4%	1.4%	2.0%	3.4%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.5	152	152	153	27	32	35	551		1.278
			27.3%	27.3%	27.5%	4.8%	5.7%	6.3%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	3.9	205	188	86	28	20	19	546		1.180
			36.8%	33.8%	15.4%	5.0%	3.6%	3.4%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.7	195	161	107	28	25	30	546		1.459
			35.0%	28.9%	19.2%	5.0%	4.5%	5.4%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.7	190	161	107	34	25	32	549		1.331
			34.1%	28.9%	19.2%	6.1%	4.5%	5.7%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
70.6%
68.9%
82.5%
81.3%
55.2%
61.7%
72.0%
71.6%
65.2%
60.7%
63.9%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	生活福祉文化学部専門教育科目

履修者数	1053	全科目数	121
回答者数	366	実施科目数	69

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	0	0	0	0		0
					0.0%		0.0%
	人間文化学科	0	0	4	6		10
				100.0%	50.0%		58.8%
生活福祉文化学部				300	50		350
				35.8%	27.9%		34.4%
心理学部				3	3		6
				33.3%	42.9%		37.5%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0				0
	心理学科	0	0				0
	こども教育学科	0	0				0
科目等履修生						0	0
その他						0	0
						0.0%	0.0%
合計		0	0	307	59	0	366
学年別回答率				36.1%	16.1%	0.0%	100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

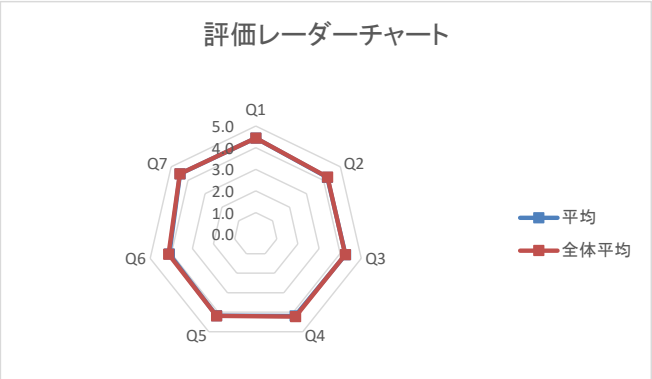
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（1）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.4	207	124	30	1	3	1	366		0.387
			56.6%	33.9%	8.2%	0.3%	0.8%	0.3%			
Q2	（2）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.2	192	105	44	13	7	5	366		0.162
			52.5%	28.7%	12.0%	3.6%	1.9%	1.4%			
Q3	（3）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.3	178	126	44	9	8	0	365		0.618
			48.6%	34.4%	12.0%	2.5%	2.2%	0.0%			
Q4	（4）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.2	181	110	50	14	11	0	366		0.972
			49.5%	30.1%	13.7%	3.8%	3.0%	0.0%			
Q5	（5）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.2	168	128	46	14	9	1	366		0.891
			45.9%	35.0%	12.6%	3.8%	2.5%	0.3%			
Q6	（6）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.1	150	137	53	16	9	1	366		0.939
			41.0%	37.4%	14.5%	4.4%	2.5%	0.3%			
Q7	（7）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.5	238	86	22	12	7	0	365		0.894
			65.0%	23.5%	6.0%	3.3%	1.9%	0.0%			

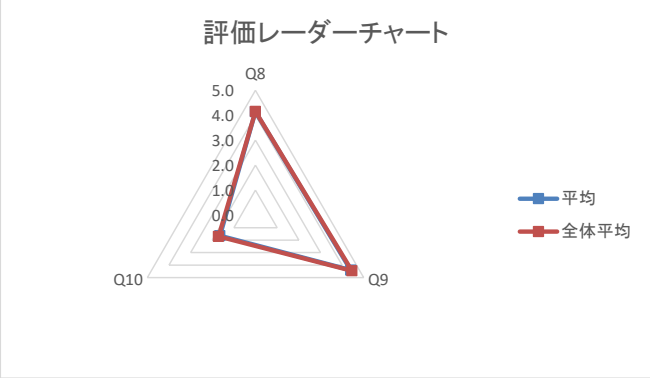
【学習の状況】

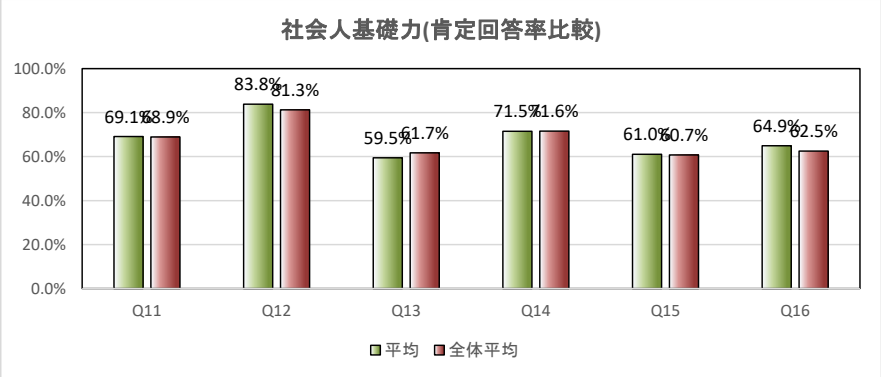
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（8）授業の内容は理解できた。	4.1	138	167	38	16	4	1	364		0.879
			37.7%	45.6%	10.4%	4.4%	1.1%	0.3%			
Q9	（9）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.4	238	75	27	11	9	4	364		0.809
			65.0%	20.5%	7.4%	3.0%	2.5%	1.1%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.6	19	24	54	69	109	90	365		0.765
			5.2%	6.6%	14.8%	18.9%	29.8%	24.6%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.9	133	120	77	11	13	12	366		0.880
			36.3%	32.8%	21.0%	3.0%	3.6%	3.3%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.2	152	154	45	5	6	3	365		1.343
			41.5%	42.1%	12.3%	1.4%	1.6%	0.8%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.6	90	127	111	19	3	15	365		1.097
			24.6%	34.7%	30.3%	5.2%	0.8%	4.1%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	3.9	123	138	74	9	9	12	365		0.873
			33.6%	37.7%	20.2%	2.5%	2.5%	3.3%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.6	106	115	94	16	11	20	362		0.961
			29.0%	31.4%	25.7%	4.4%	3.0%	5.5%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.7	115	122	88	16	7	17	365		1.075
			31.4%	33.3%	24.0%	4.4%	1.9%	4.6%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
69.1%
68.9%
83.8%
81.3%
59.5%
61.7%
71.5%
71.6%
61.0%
60.7%
64.9%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	心理学科専門教育科目

履修者数	1973	全科目数	39
回答者数	723	実施科目数	38

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	2	0	2	1		5
		100.0%		66.7%	50.0%		71.4%
	人間文化学科	1	1	0	1		3
		100.0%	50.0%	0.0%	33.3%		42.9%
生活福祉文化学部				1	1		2
				16.7%	25.0%		20.0%
心理学部				64	40		104
				18.1%	22.0%		19.4%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	2				2
		0.0%	18.2%				16.7%
	心理学科	377	230				607
		57.5%	30.8%				43.3%
	こども教育学科	0	0				0
科目等履修生						0	0
その他						0	0
合計		380	233	67	43	0	723
学年別回答率		57.6%	30.7%	18.5%	5.9%		100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

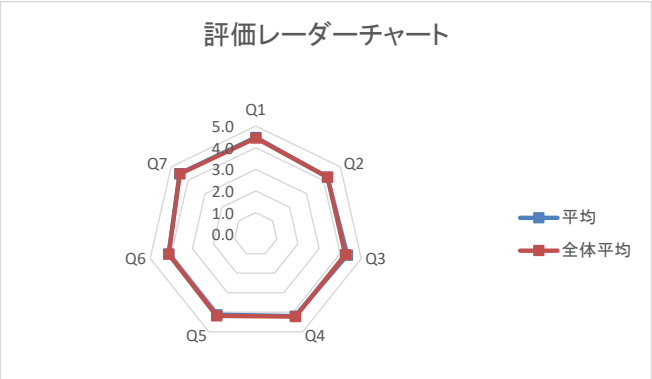
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（１）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.5	418	246	46	6	5	0	721		0.929
			57.8%	34.0%	6.4%	0.8%	0.7%	0.0%			
Q2	（２）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.2	359	241	73	29	19	1	722		0.999
			49.7%	33.3%	10.1%	4.0%	2.6%	0.1%			
Q3	（３）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.3	387	235	68	21	8	2	721		0.655
			53.5%	32.5%	9.4%	2.9%	1.1%	0.3%			
Q4	（４）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.2	359	219	88	30	22	1	719		0.961
			49.7%	30.3%	12.2%	4.1%	3.0%	0.1%			
Q5	（５）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.1	320	243	107	31	18	2	721		0.883
			44.3%	33.6%	14.8%	4.3%	2.5%	0.3%			
Q6	（６）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.1	325	232	105	34	20	2	718		1.008
			45.0%	32.1%	14.5%	4.7%	2.8%	0.3%			
Q7	（７）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.5	459	184	58	14	5	0	720		0.980
			63.5%	25.4%	8.0%	1.9%	0.7%	0.0%			

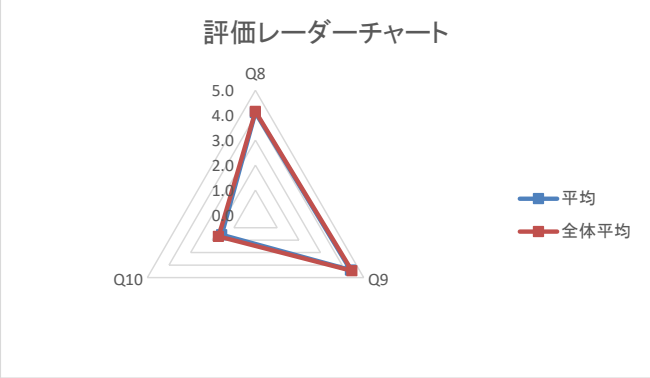
【学習の状況】

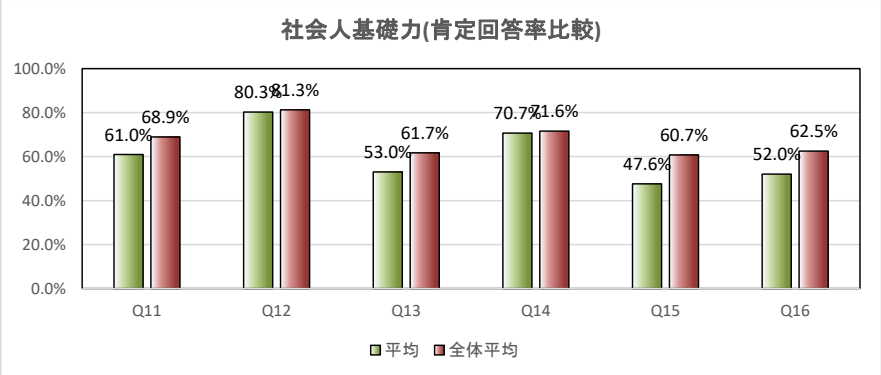
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（８）授業の内容は理解できた。	4.1	275	299	107	30	8	1	720		1.048
			38.0%	41.4%	14.8%	4.1%	1.1%	0.1%			
Q9	（９）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.4	475	139	52	30	18	7	721		0.752
			65.7%	19.2%	7.2%	4.1%	2.5%	1.0%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.6	22	40	115	155	202	187	721		0.873
			3.0%	5.5%	15.9%	21.4%	27.9%	25.9%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.7	225	209	199	33	24	22	712		1.093
			31.1%	28.9%	27.5%	4.6%	3.3%	3.0%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.1	306	267	107	16	10	8	714		1.268
			42.3%	36.9%	14.8%	2.2%	1.4%	1.1%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.4	168	209	218	40	27	49	711		1.282
			23.2%	28.9%	30.2%	5.5%	3.7%	6.8%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	3.9	241	263	157	20	16	16	713		1.014
			33.3%	36.4%	21.7%	2.8%	2.2%	2.2%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.3	168	170	233	57	42	40	710		1.408
			23.2%	23.5%	32.2%	7.9%	5.8%	5.5%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.4	168	202	223	46	37	35	711		1.188
			23.2%	27.9%	30.8%	6.4%	5.1%	4.8%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
61.0%
68.9%
80.3%
81.3%
53.0%
61.7%
70.7%
71.6%
47.6%
60.7%
52.0%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	心理学部専門教育科目

履修者数	1163	全科目数	109
回答者数	386	実施科目数	45

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	0	0	0	0		0
					0.0%		0.0%
	人間文化学科	0	0	0	0		0
				0.0%	0.0%		0.0%
生活福祉文化学部				0	0		0
心理学部				333	53		386
				35.1%	25.7%		33.4%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0				0
	心理学科	0	0				0
			0.0%				0.0%
	こども教育学科	0	0				0
科目等履修生						0	0
その他						0	0
合計		0	0	333	53	0	386
学年別回答率			0.0%	35.1%	13.7%		100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

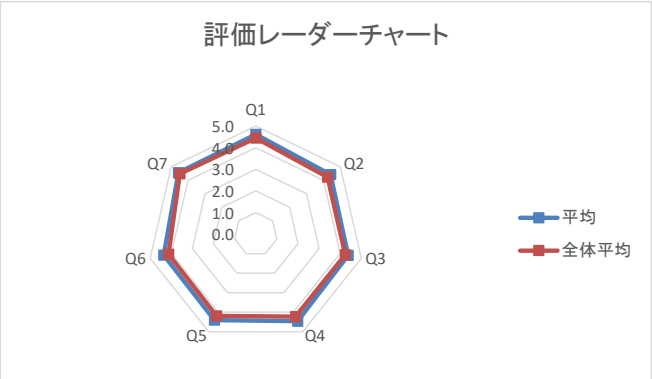
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（１）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.6	263	101	18	1	2	0	385		0.211
			68.1%	26.2%	4.7%	0.3%	0.5%	0.0%			
Q2	（２）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.4	229	111	30	5	8	1	384		0.000
			59.3%	28.8%	7.8%	1.3%	2.1%	0.3%			
Q3	（３）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.4	230	107	29	6	4	8	384		0.649
			59.6%	27.7%	7.5%	1.6%	1.0%	2.1%			
Q4	（４）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.5	230	117	21	8	6	0	382		0.985
			59.6%	30.3%	5.4%	2.1%	1.6%	0.0%			
Q5	（５）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.4	215	128	29	4	6	1	383		0.924
			55.7%	33.2%	7.5%	1.0%	1.6%	0.3%			
Q6	（６）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.4	206	133	34	4	7	1	385		0.839
			53.4%	34.5%	8.8%	1.0%	1.8%	0.3%			
Q7	（７）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.6	268	82	21	4	7	0	382		0.962
			69.4%	21.2%	5.4%	1.0%	1.8%	0.0%			

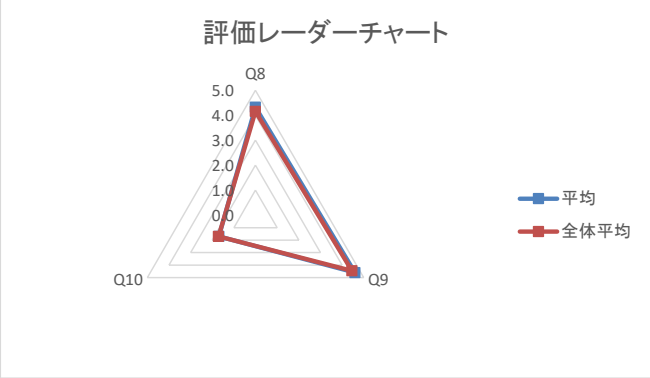
【学習の状況】

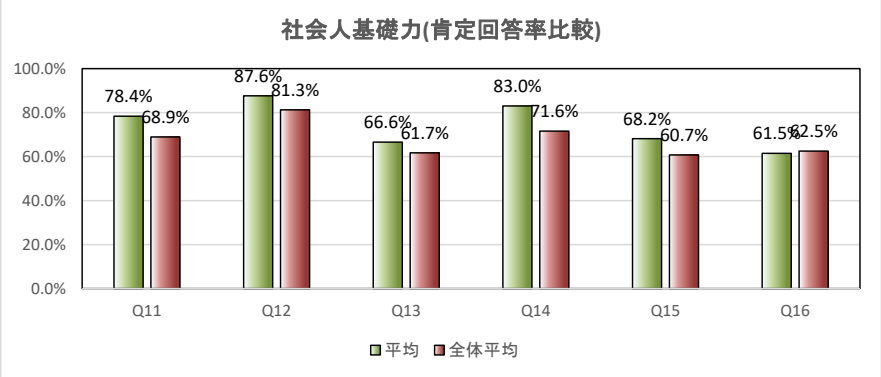
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（８）授業の内容は理解できた。	4.3	182	161	29	8	4	0	384		0.879
			47.2%	41.7%	7.5%	2.1%	1.0%	0.0%			
Q9	（９）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.6	283	68	22	8	5	0	386		0.763
			73.3%	17.6%	5.7%	2.1%	1.3%	0.0%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.7	9	16	78	96	119	68	386		0.859
			2.3%	4.1%	20.2%	24.9%	30.8%	17.6%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	4.0	155	142	52	9	6	15	379		0.759
			40.2%	36.8%	13.5%	2.3%	1.6%	3.9%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.4	212	121	40	2	1	4	380		1.246
			54.9%	31.3%	10.4%	0.5%	0.3%	1.0%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.7	128	125	80	11	9	27	380		1.257
			33.2%	32.4%	20.7%	2.8%	2.3%	7.0%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	4.2	171	142	47	5	3	9	377		0.863
			44.3%	36.8%	12.2%	1.3%	0.8%	2.3%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.7	124	135	77	6	9	29	380		1.351
			32.1%	35.0%	19.9%	1.6%	2.3%	7.5%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.6	122	111	90	9	13	34	379		1.231
			31.6%	28.8%	23.3%	2.3%	3.4%	8.8%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
78.4%
68.9%
87.6%
81.3%
66.6%
61.7%
83.0%
71.6%
68.2%
60.7%
61.5%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	こども教育学科専門教育科目

履修者数	2042	全科目数	72
回答者数	998	実施科目数	68

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	0	0	0	0		0
	人間文化学科	0	0	0	0		0
生活福祉文化学部				5	1		6
				100.0%	20.0%		60.0%
心理学部				38	10		48
				47.5%	30.3%		42.5%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0				0
	心理学科	0	0				0
	こども教育学科	552	392				944
		56.4%	41.7%				49.2%
科目等履修生						0	0
その他						0	0
合計		552	392	43	11	0	998
学年別回答率		56.4%	41.7%	50.6%	1.1%		100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

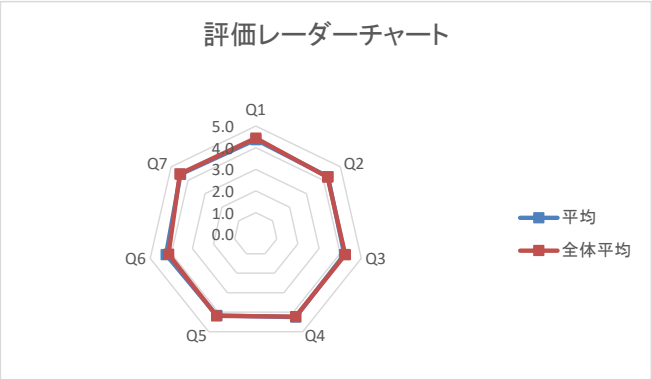
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（１）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.4	542	322	99	14	8	6	991		0.793
			54.3%	32.3%	9.9%	1.4%	0.8%	0.6%			
Q2	（２）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.3	529	295	106	32	24	6	992		0.956
			53.0%	29.6%	10.6%	3.2%	2.4%	0.6%			
Q3	（３）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.2	483	314	130	43	13	8	991		0.824
			48.4%	31.5%	13.0%	4.3%	1.3%	0.8%			
Q4	（４）教員の話し方は、わかりやすかった。	4.2	529	298	83	45	35	1	991		0.998
			53.0%	29.9%	8.3%	4.5%	3.5%	0.1%			
Q5	（５）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.2	477	312	119	51	33	0	992		0.944
			47.8%	31.3%	11.9%	5.1%	3.3%	0.0%			
Q6	（６）授業は興味関心の持てる内容であった。	4.3	514	305	106	44	21	2	992		1.086
			51.5%	30.6%	10.6%	4.4%	2.1%	0.2%			
Q7	（７）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.4	616	265	59	36	12	1	989		1.081
			61.7%	26.6%	5.9%	3.6%	1.2%	0.1%			

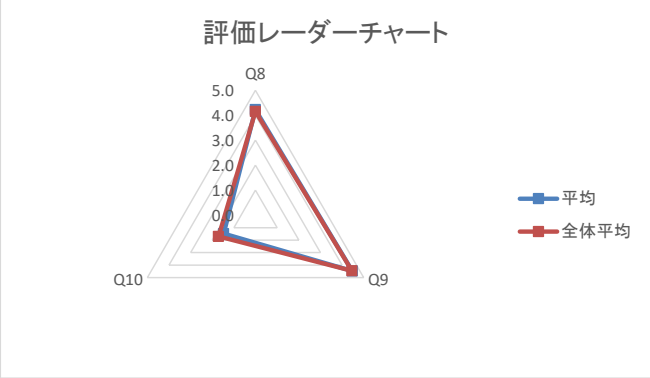
【学習の状況】

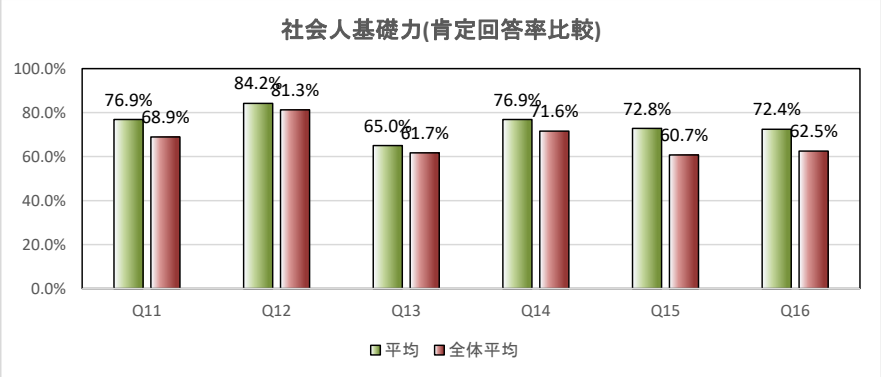
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（８）授業の内容は理解できた。	4.2	484	337	109	37	20	4	991		0.965
			48.5%	33.8%	10.9%	3.7%	2.0%	0.4%			
Q9	（９）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.5	687	191	50	42	7	15	992		0.809
			68.8%	19.1%	5.0%	4.2%	0.7%	1.5%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.5	23	54	142	199	305	269	992		0.960
			2.3%	5.4%	14.2%	19.9%	30.6%	27.0%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	4.1	422	336	157	28	22	21	986		1.163
			42.3%	33.7%	15.7%	2.8%	2.2%	2.1%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.2	460	371	107	23	23	3	987		1.203
			46.1%	37.2%	10.7%	2.3%	2.3%	0.3%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.8	311	332	236	45	37	28	989		1.124
			31.2%	33.3%	23.6%	4.5%	3.7%	2.8%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	4.0	389	372	153	31	24	21	990		0.929
			39.0%	37.3%	15.3%	3.1%	2.4%	2.1%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.9	370	351	192	21	32	24	990		1.195
			37.1%	35.2%	19.2%	2.1%	3.2%	2.4%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.9	361	356	195	29	29	20	990		1.094
			36.2%	35.7%	19.5%	2.9%	2.9%	2.0%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
76.9%
68.9%
84.2%
81.3%
65.0%
61.7%
76.9%
71.6%
72.8%
60.7%
72.4%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

2018 年度　学生による授業評価アンケート集計結果表　　開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	資格科目等

履修者数	908	全科目数	61
回答者数	315	実施科目数	49

学部学科		上段：回答数　／　下段：回答率（%）					合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	所属学科別回答率
人間文化学部	英語英文学科	18	10	11	18		57
		85.7%	26.3%	50.0%	22.0%		34.5%
	人間文化学科	36	23	50	11		120
		53.7%	25.6%	33.3%	28.2%		34.7%
生活福祉文化学部				18	1		19
				30.0%	2.2%		18.1%
心理学部				48	31		79
				54.5%	27.7%		39.5%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	10	8				18
		83.3%	20.5%				35.3%
	心理学科	7	15				22
		58.3%	53.6%				55.0%
	こども教育学科	0	0				0
科目等履修生						0	0
その他						0	0
						0.0%	0.0%
合計		71	56	127	61	0	315
学年別回答率		63.4%	28.7%	39.7%	19.4%	0.0%	100.0%

※Q10以外 5：そう思う　4：どちらかと言えばそう思う　3：どちらとも言えない
2：どちらかと言えばそう思わない　1：そう思わない　0：該当しない

※Q10　5：2時間以上　4：１～２時間未満　3：３０分～１時間未満　2：３０分未満　1：０時間

【授業の状況】

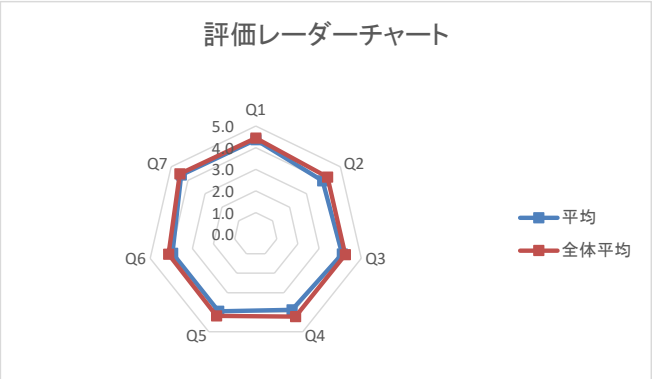
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q1	（１）授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であった。	4.4	171	99	31	3	3	3	310		1.182
			54.3%	31.4%	9.8%	1.0%	1.0%	1.0%			
Q2	（２）授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。	4.0	140	77	51	24	16	2	310		1.435
			44.4%	24.4%	16.2%	7.6%	5.1%	0.6%			
Q3	（３）成績評価の仕方が明確に示されていた。	4.1	146	95	40	9	14	4	308		1.129
			46.3%	30.2%	12.7%	2.9%	4.4%	1.3%			
Q4	（４）教員の話し方は、わかりやすかった。	3.9	130	90	39	19	27	3	308		1.440
			41.3%	28.6%	12.4%	6.0%	8.6%	1.0%			
Q5	（５）教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進めた。	4.0	133	89	52	15	18	3	310		1.285
			42.2%	28.3%	16.5%	4.8%	5.7%	1.0%			
Q6	（６）授業は興味関心の持てる内容であった。	3.9	140	76	55	15	20	3	309		1.417
			44.4%	24.1%	17.5%	4.8%	6.3%	1.0%			
Q7	（７）授業の教室の広さや設備などは適切であった。	4.4	190	84	15	11	6	3	309		1.300
			60.3%	26.7%	4.8%	3.5%	1.9%	1.0%			

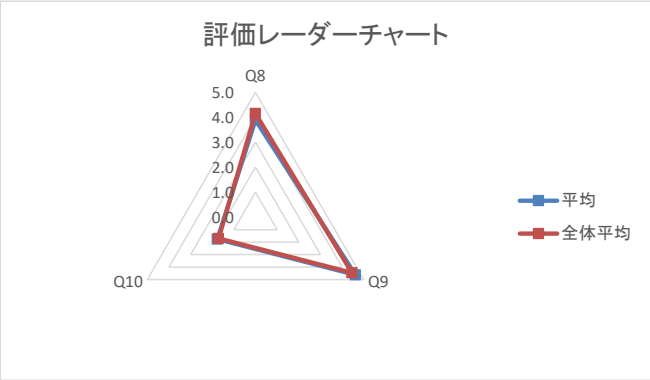
【学習の状況】

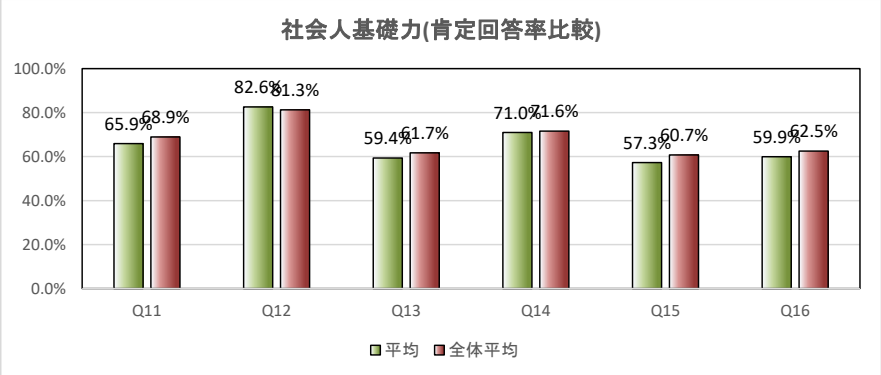
No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q8	（８）授業の内容は理解できた。	3.9	113	102	61	20	11	3	310		1.365
			35.9%	32.4%	19.4%	6.3%	3.5%	1.0%			
Q9	（９）やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	4.6	233	54	12	2	6	2	309		0.914
			74.0%	17.1%	3.8%	0.6%	1.9%	0.6%			
Q10	（10）この科目について授業以外１週間あたり、どのくらい学修しましたか。	1.8	18	24	44	59	103	58	306		1.303
			5.7%	7.6%	14.0%	18.7%	32.7%	18.4%			

【学習成果　（社会人基礎力）】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数　／　下段：回答率（%）						有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1	0			
Q11	（11）この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.8	121	82	68	9	16	12	308		1.074
			38.4%	26.0%	21.6%	2.9%	5.1%	3.8%			
Q12	（12）この授業で、「知識・理解力」が向上した。	4.2	149	107	34	5	10	5	310		1.564
			47.3%	34.0%	10.8%	1.6%	3.2%	1.6%			
Q13	（13）この授業で、「言語力」が向上した。	3.6	115	69	70	23	19	14	310		1.304
			36.5%	21.9%	22.2%	7.3%	6.0%	4.4%			
Q14	（14）この授業で、「思考・解決力」が向上した。	3.9	126	94	58	14	10	8	310		1.036
			40.0%	29.8%	18.4%	4.4%	3.2%	2.5%			
Q15	（15）この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	3.5	95	82	81	12	24	15	309		1.486
			30.2%	26.0%	25.7%	3.8%	7.6%	4.8%			
Q16	（16）この授業で、「創造・発信力」が向上した。	3.6	97	87	74	15	19	15	307		1.160
			30.8%	27.6%	23.5%	4.8%	6.0%	4.8%			


評価レーダーチャート
Q1
Q2
Q3
Q4
Q5
Q6
Q7
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


評価レーダーチャート
Q8
Q9
Q10
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
平均
全体平均


社会人基礎力(肯定回答率比較)
100.0%
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
65.9%
68.9%
82.6%
81.3%
59.4%
61.7%
71.0%
71.6%
57.3%
60.7%
59.9%
62.5%
Q11
Q12
Q13
Q14
Q15
Q16
平均
全体平均

Ⅱ　2018（平成 30）年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告

１．実施目的

今後の教育内容の改善、また充実した教育プログラムの維持・構築に役立てることを目的とする。本学大学院の教育の質的向上を目指して、全学的規模で「大学院生による教育評価アンケート」を実施した。

２．実施方法

１）実施期間

2018（平成 30）年 12 月 8 日(金)～2019（平成 31）年 1 月 31 日(金)

２）調査対象者

調査対象者：全研究科の大学院生

３）在籍者数・回収数・回収率

研究科	専攻科	在籍者数（名）	回答者数（名）	回答率
人間文化研究科	応用英語専攻	5	5	100.0%
	人間文化専攻	0	0	-
	生活福祉文化専攻	1	1	100.0%
	研究科計	6	6	100.0%
心理学研究科	発達・学校心理学専攻	3	3	100.0%
	臨床心理学専攻	18	12	66.7%
	研究科計	21	15	71.4%
計		27	21	77.8%

４）調査内容

調査項目については、FD 委員会にて検討し、昨年度実施分と同じ調査項目で実施した。

冒頭で、回答者の属性（学年・所属研究科（専攻））を尋ね、続いて以下の項目について尋ねた。設問は選択式 10 問、自由記述 2 問であった。

調査項目

（１）評価項目

選択式

① 学位取得のための道筋が明確に示されている

② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである

③ 授業時間割はバランスよく配置されている

④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている

⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている

⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている

⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている

⑧ 研究科（専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、 必要な図書、関連資料が用意されている

⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている

⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

自由記述

○ あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください。

○ あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください。

（2）回答形式

選択式設問①～⑩については、以下の 5 件法で回答させた。

5：そう思う

4：どちらかと言えばそう思う

3：どちらとも言えない

2：どちらかと言えばそう思わない

1：そう思わない

5）実施手順

実施に当たっては、研究・情報推進課にてオンラインアンケートツール SurveyMonkey にアンケートを作成し、大学院生に回答を依頼するメールを送信した。

6）結果の集計

研究・情報推進課にて集計し、集計結果シートを作成した。

7）結果通知と集計結果の配付と活用

2019（平成 30）年 2 月 13 日、全学教員 FD 研修会の際に、全学および、研究科ごとの集計結果シートを出席者に配付した。欠席した教員には、別途配付した。

結果の活用については、FD 委員会にて検討し、集計結果から読み取れる課題（大学院生のキャリア形成を視野に入れた指導、学習環境の改善）については関係部署に対し対策の検討および対応状況の報告を依頼した。

４.「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

全学（大学院）のアンケート結果から、選択式設問においては、「学位取得のための道筋が明確に示されている」が全体平均点 4.4 と最も高く、次いで、「研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている」が 4.3、「提供される科目の授業内容が明確に示されている」が 4.2、「個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている」および「オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている」がともに 4.1 であり、研究科や専攻別でみると若干の評価の高低はみられたものの概ね本学のカリキュラムや教員の指導体制に納得していることが示された。このことから大学院生本人が自身の学位取得までのプロセスを具体的に思い描けている様子が伺える。

一方、「提示されたカリキュラムは納得のいくものである」は 3.9、「研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている」および「自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」はいずれも 3.8、「授業時間割はバランスよく配置されている」は 3.7 であったが、これらの項目については、専攻別、および個別の評価についてかなりのばらつきが見られ、研究内容、個別の研究テーマに違いがあることを考慮しても、本大学院の指導体制の満足度に関して差があることが明らかになった。また、「キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている」については、例年評価が低いことが問題視されているが、本年度も全体平均点が 3.3 であり、前年度の全体平均点 3.6 をさらに 0.3 ポイント下回り、全項目中でもっとも低値となった。

自由記述では「よかった点」として、専攻を問わず多くの学生から「親身に」、「熱心に」、「丁寧に」指導を受けることができたこと、担当教員だけでなく他の教員からも指導を受ける機会があったこと、教員と院生の距離が近いことなどが挙げられており、選択式設問の結果と同様、少人数制の利点を十分に享受できる指導体制であったことが示された。しかしながら「改善すべき点」として、教員の一部に指導に対する認識の甘さが見られる、ある特定の分野について学びたかったが科目の設定がなかった、あるいはその科目をもう少し時間をかけて学びたかったなど、教員の資質に関わる指摘や、カリキュラムの設定および授業の進め方に関する問題を指摘する声もあり、全体的には高評価を得た指導体制ではあるが個別に解決すべき課題も明らかとなった。さらに、院生ルームのパソコンの台数が不十分であるといった指摘もあり、自習室、研究設備等の学内の学習研究環境に対しての改善要望も見られた。加えて、選択式設問の結果でもっとも全体平均点が低値であった「キャリア形成」に関する率直な不安も吐露されていた。

これらの結果をふまえて、今後の課題を整理すると大きく以下の 2 点に要約できる。1 つは、「キャリア形成を視野に入れた指導を具現化する」ことである。学位取得までの道筋は学生に十分理解され、そこに至るまでの指導にも総じてみれば高い満足度を得ているといえるが、修士号を得た先のライフコースを描ききれない学生に対しては、さらなる指導が必要となる。本学にはロールモデルとなり得る教職員の存在などキャリア教育の資源が豊富にあることから、キャリア形成に関する学生の不安を解消するための有効な方策を講じることは可能であると考える。2 つ目は「学習環境の改善を早急に実現する」ことである。特に具体的な指摘を受けた点については、対策の早期実行が望まれる。

本学の大学院教育の一層の充実を図るためには、学生からの意見を真摯に受け止め、今回顕在化した課題に対して、学生一人一人に向き合った指導をより円滑に行えるように全学的な視点で協力体制を構築していくことが求められているといえよう。

文責：米崎 啓和（人間文化学部　英語英文学科　FD 委員）

2018年度　大学院生による教育評価アンケート集計結果表（全体）　京都ノートルダム女子大学

■専攻

回答者数	21

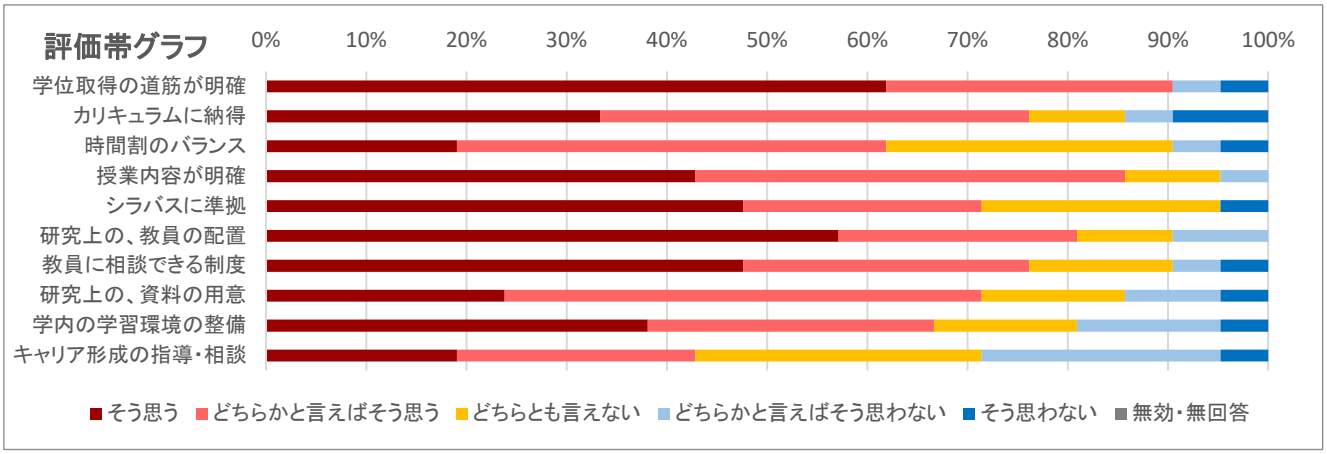
応用英語専攻		生活福祉文化専攻		人間文化専攻		発達・学校心理学専攻		臨床心理学専攻		心理学専攻		科目等履修生		計
5	23.8%	1	4.8%	0	0.0%	3	14.3%	12	57.1%	0	0.0%	0	0.0%	21

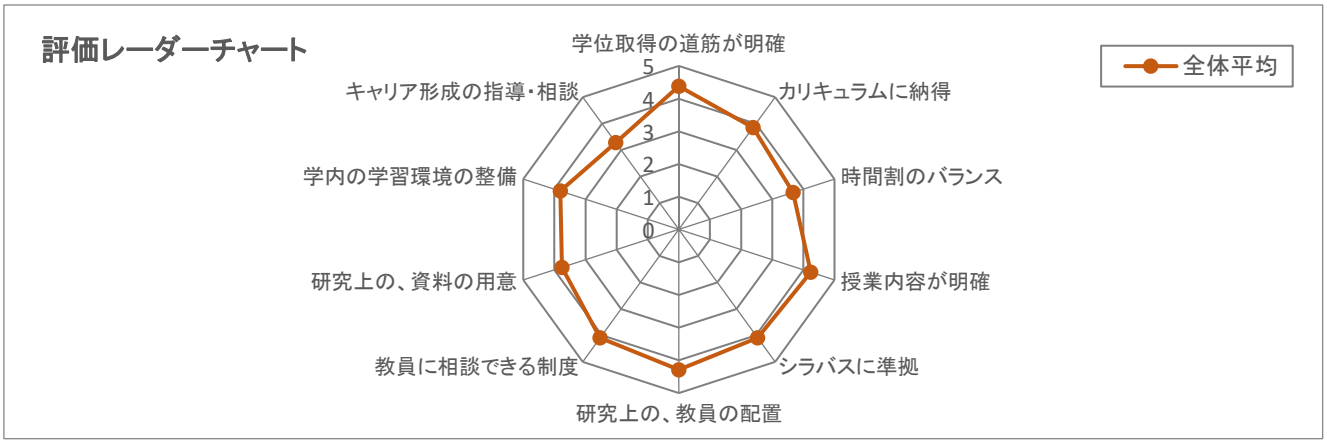
■学年

修士課程（M1）		修士課程（M2）		博士前期課程（M1）		博士前期課程（M2）		博士後期課程（D1）		博士後期課程（D2）		博士後期課程（D3）		計
1	4.8%	5	23.8%	8	38.1%	7	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	21

5:そう思う　4:どちらかと言えばそう思う　3:どちらとも言えない　2:どちらかと言えばそう思わない　1:そう思わない

No.	設問文	全体平均点	上段: 回答数 ／ 下段:回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.4	13	6	0	1	1	21	0	1.045
			61.9%	28.6%	0.0%	4.8%	4.8%			
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.9	7	9	2	1	2	21	0	1.207
			33.3%	42.9%	9.5%	4.8%	9.5%			
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.7	4	9	6	1	1	21	0	0.992
			19.0%	42.9%	28.6%	4.8%	4.8%			
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	9	9	2	1	0	21	0	0.811
			42.9%	42.9%	9.5%	4.8%	0.0%			
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	4.1	10	5	5	0	1	21	0	1.065
			47.6%	23.8%	23.8%	0.0%	4.8%			
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.3	12	5	2	2	0	21	0	0.983
			57.1%	23.8%	9.5%	9.5%	0.0%			
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	4.1	10	6	3	1	1	21	0	1.109
			47.6%	28.6%	14.3%	4.8%	4.8%			
Q8	研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.8	5	10	3	2	1	21	0	1.065
			23.8%	47.6%	14.3%	9.5%	4.8%			
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	8	6	3	3	1	21	0	1.220
			38.1%	28.6%	14.3%	14.3%	4.8%			
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	4	5	6	5	1	21	0	1.161
			19.0%	23.8%	28.6%	23.8%	4.8%			





2018年度　大学院生による教育評価アンケート集計結果表（研究科別）　京都ノートルダム女子大学

■研究科

回答者数	6

人間文化研究科

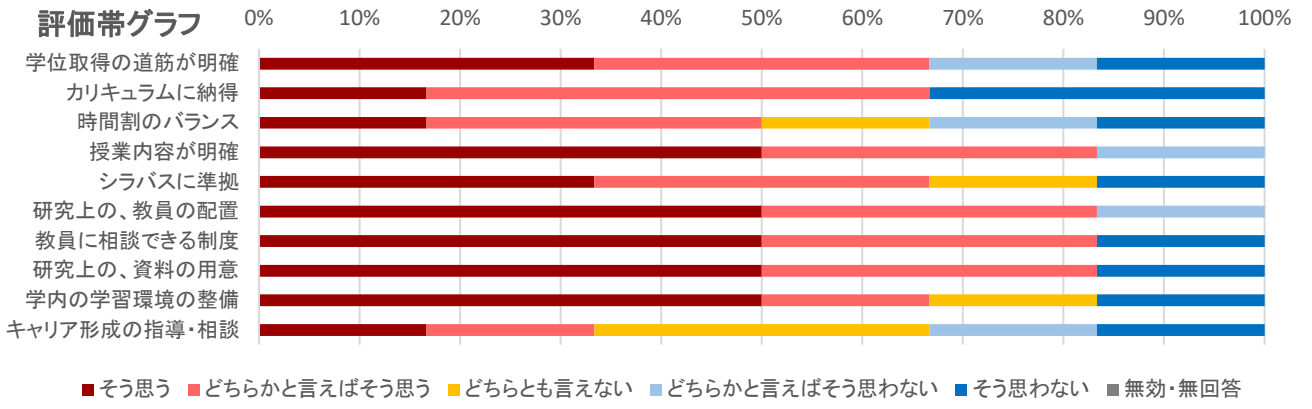
■学年

修士課程（M1）		修士課程（M2）		博士前期課程（M1）		博士前期課程（M2）		博士後期課程（D1）		博士後期課程（D2）		博士後期課程（D3）		計
1	16.7%	5	83.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6

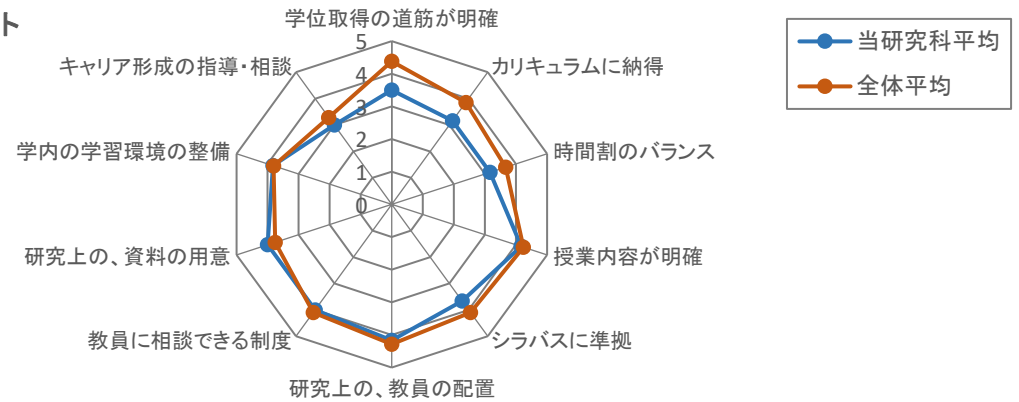
5:そう思う　4:どちらかと言えばそう思う　3:どちらとも言えない　2:どちらかと言えばそう思わない　1:そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当研究科平均点	上段: 回答数 ／ 下段:回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.4	3.5	2	2	0	1	1	6	0	1.500
				33.3%	33.3%	0.0%	16.7%	16.7%			
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.9	3.2	1	3	0	0	2	6	0	1.572
				16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	33.3%			
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.7	3.2	1	2	1	1	1	6	0	1.344
				16.7%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%			
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.2	3	2	0	1	0	6	0	1.067
				50.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%			
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	4.1	3.7	2	2	1	0	1	6	0	1.374
				33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%			
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.3	4.2	3	2	0	1	0	6	0	1.067
				50.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%			
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.0	3	2	0	0	1	6	0	1.414
				50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%			
Q8	研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.8	4.0	3	2	0	0	1	6	0	1.414
				50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%			
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	3.8	3	1	1	0	1	6	0	1.462
				50.0%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%			
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.0	1	1	2	1	1	6	0	1.291
				16.7%	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%			

評価帯グラフ



評価レーダーチャート



2018年度　大学院生による教育評価アンケート集計結果表（研究科別）　京都ノートルダム女子大学

■研究科

回答者数	15

心理学研究科

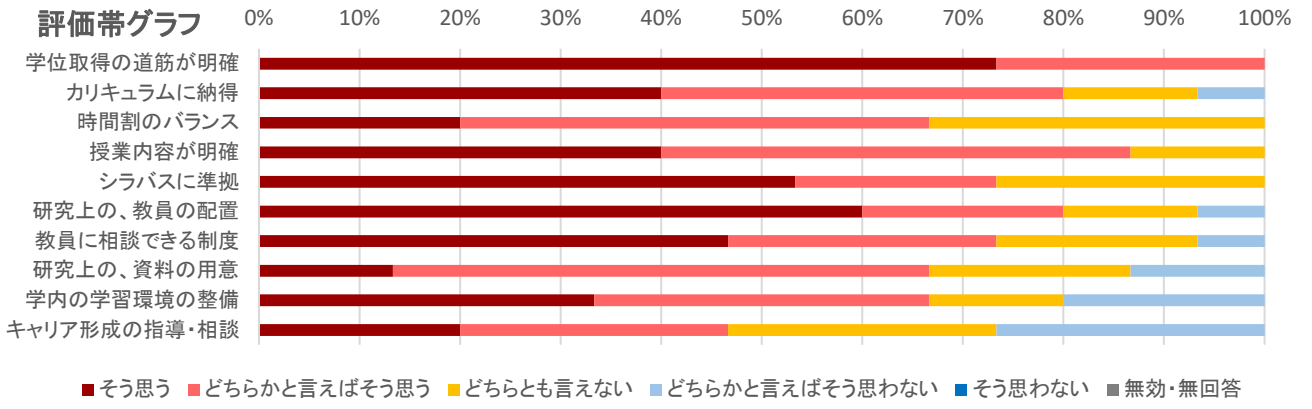
■学年

修士課程（M1）		修士課程（M2）		博士前期課程（M1）		博士前期課程（M2）		博士後期課程（D1）		博士後期課程（D2）		博士後期課程（D3）		計
0	0.0%	0	0.0%	8	53.3%	7	46.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15

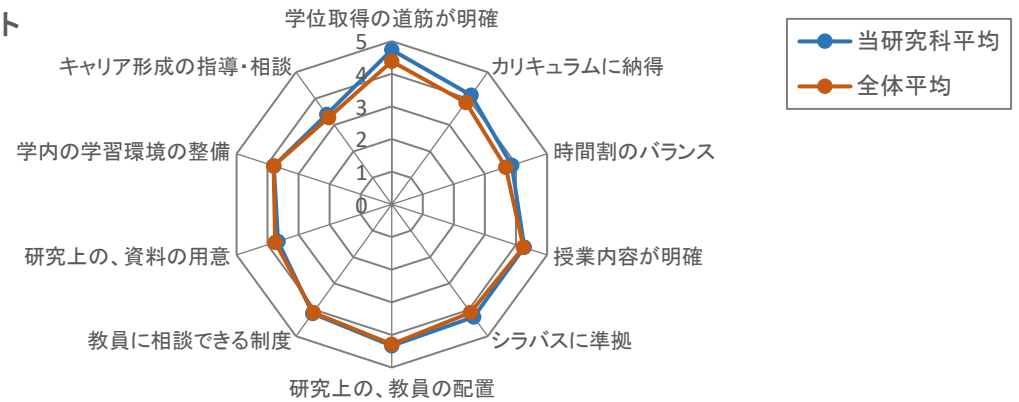
5:そう思う　4:どちらかと言えばそう思う　3:どちらとも言えない　2:どちらかと言えばそう思わない　1:そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当研究科平均点	上段: 回答数 ／ 下段:回答率（%） 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.4	4.7	11	4	0	0	0	15	0	0.442
				73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.9	4.1	6	6	2	1	0	15	0	0.884
				40.0%	40.0%	13.3%	6.7%	0.0%			
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.7	3.9	3	7	5	0	0	15	0	0.718
				20.0%	46.7%	33.3%	0.0%	0.0%			
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.3	6	7	2	0	0	15	0	0.680
				40.0%	46.7%	13.3%	0.0%	0.0%			
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	4.1	4.3	8	3	4	0	0	15	0	0.854
				53.3%	20.0%	26.7%	0.0%	0.0%			
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.3	4.3	9	3	2	1	0	15	0	0.943
				60.0%	20.0%	13.3%	6.7%	0.0%			
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.1	7	4	3	1	0	15	0	0.957
				46.7%	26.7%	20.0%	6.7%	0.0%			
Q8	研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.8	3.7	2	8	3	2	0	15	0	0.869
				13.3%	53.3%	20.0%	13.3%	0.0%			
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	3.8	5	5	2	3	0	15	0	1.108
				33.3%	33.3%	13.3%	20.0%	0.0%			
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.4	3	4	4	4	0	15	0	1.083
				20.0%	26.7%	26.7%	26.7%	0.0%			

評価帯グラフ



評価レーダーチャート



2018年度　大学院生による教育評価アンケート集計結果表（専攻別）　京都ノートルダム女子大学

■専攻

回答者数	3

発達・学校心理学専攻

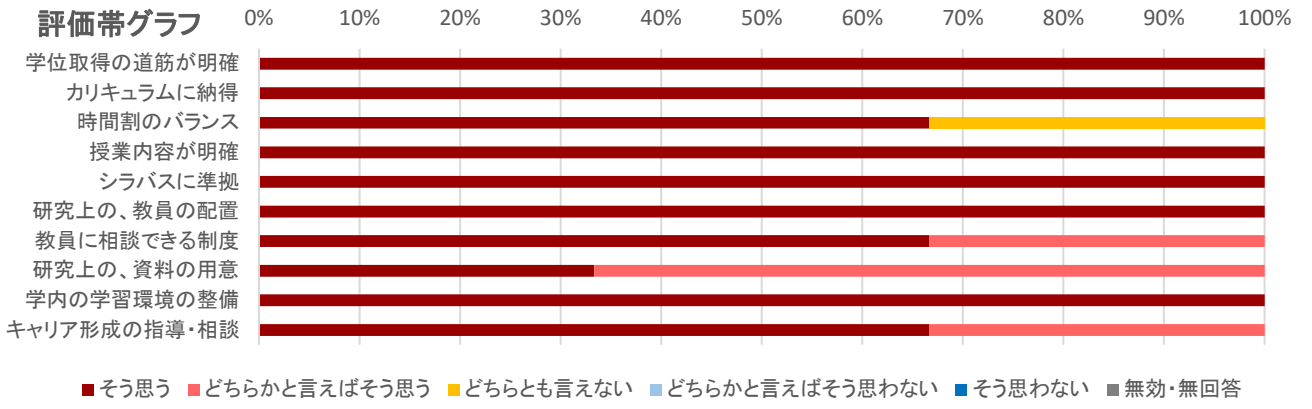
■学年

修士課程（M1）		修士課程（M2）		博士前期課程（M1）		博士前期課程（M2）		博士後期課程（D1）		博士後期課程（D2）		博士後期課程（D3）		計
0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3

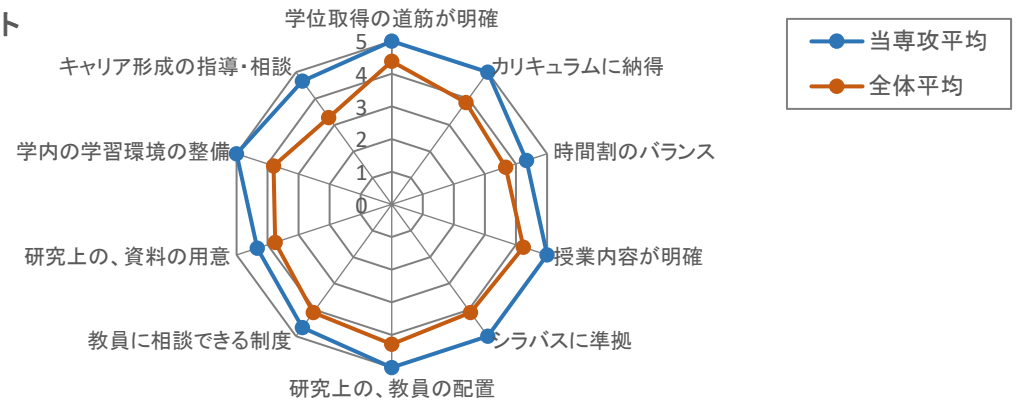
5:そう思う　4:どちらかと言えばそう思う　3:どちらとも言えない　2:どちらかと言えばそう思わない　1:そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 ／ 下段:回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.4	5.0	3	0	0	0	0	3	0	0.000
				100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.9	5.0	3	0	0	0	0	3	0	0.000
				100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.7	4.3	2	0	1	0	0	3	0	0.943
				66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%			
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	5.0	3	0	0	0	0	3	0	0.000
				100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	4.1	5.0	3	0	0	0	0	3	0	0.000
				100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.3	5.0	3	0	0	0	0	3	0	0.000
				100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.7	2	1	0	0	0	3	0	0.471
				66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q8	研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.8	4.3	1	2	0	0	0	3	0	0.471
				33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	5.0	3	0	0	0	0	3	0	0.000
				100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	4.7	2	1	0	0	0	3	0	0.471
				66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%			

評価帯グラフ



評価レーダーチャート



2018年度　大学院生による教育評価アンケート集計結果表（専攻別）　京都ノートルダム女子大学

■専攻

回答者数	12

臨床心理学専攻

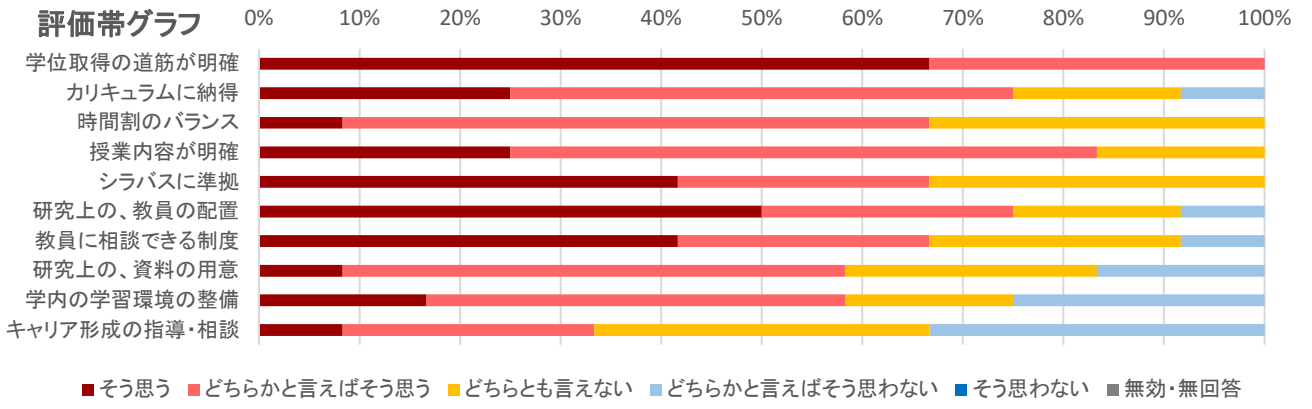
■学年

修士課程（M1）		修士課程（M2）		博士前期課程（M1）		博士前期課程（M2）		博士後期課程（D1）		博士後期課程（D2）		博士後期課程（D3）		計
0	0.0%	0	0.0%	7	58.3%	5	41.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12

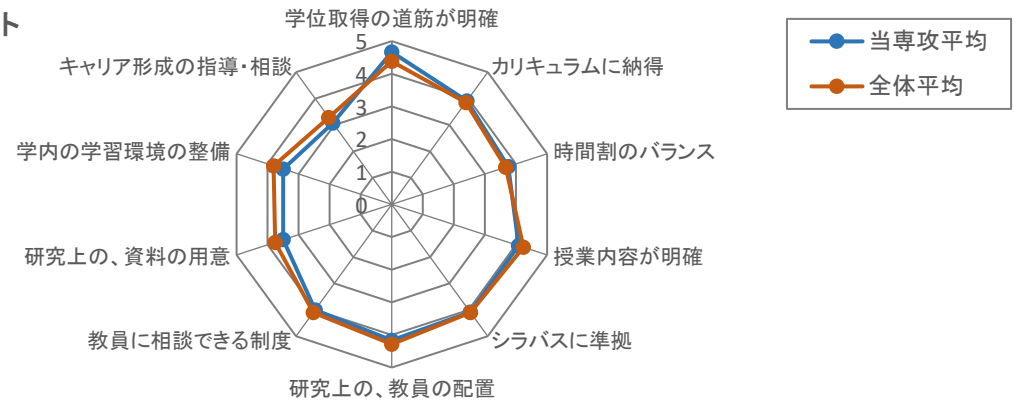
5:そう思う　4:どちらかと言えばそう思う　3:どちらとも言えない　2:どちらかと言えばそう思わない　1:そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当専攻平均点	上段: 回答数 ／ 下段:回答率(%) 5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.4	4.7	8	4	0	0	0	12	0	0.471
				66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%			
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	3.9	3.9	3	6	2	1	0	12	0	0.862
				25.0%	50.0%	16.7%	8.3%	0.0%			
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.7	3.8	1	7	4	0	0	12	0	0.595
				8.3%	58.3%	33.3%	0.0%	0.0%			
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.2	4.1	3	7	2	0	0	12	0	0.640
				25.0%	58.3%	16.7%	0.0%	0.0%			
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	4.1	4.1	5	3	4	0	0	12	0	0.862
				41.7%	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%			
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.3	4.2	6	3	2	1	0	12	0	0.986
				50.0%	25.0%	16.7%	8.3%	0.0%			
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	4.1	4.0	5	3	3	1	0	12	0	1.000
				41.7%	25.0%	25.0%	8.3%	0.0%			
Q8	研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.8	3.5	1	6	3	2	0	12	0	0.866
				8.3%	50.0%	25.0%	16.7%	0.0%			
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	3.8	3.5	2	5	2	3	0	12	0	1.041
				16.7%	41.7%	16.7%	25.0%	0.0%			
Q10	キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている	3.3	3.1	1	3	4	4	0	12	0	0.954
				8.3%	25.0%	33.3%	33.3%	0.0%			

評価帯グラフ



評価レーダーチャート



Ⅲ　2018（平成 30）年度「オープンクラス」実施報告

1.実施概要

オープンクラスによる相互授業参観は、教員同士が互いの授業を公開し授業内容や方法について検討することによって、授業方法に関する知識や技能を共有できるなどの利点がある。本学では 2011（平成 23）年度よりオープンクラスを実施している。

2018（平成 30）年度は、前期と後期にそれぞれ 2 週間のオープンクラス・ウィークを実施した。期間中は、原則として全ての学部開講授業を、本学の教職員と学生を対象に公開した。授業参観者から提出されたコメントシートには、参観した授業についての感想や助言が寄せられ、その内容は授業担当教員へ伝えられた。

2018（平成 30）年度「オープンクラス」実施状況

オープンクラス・ウィーク実施期間	参観者コメントシート提出数	参観者コメントシート提出者数
7 月 2 日(月) ～7 月 13 日(金)	50	37
10 月 22 日(月)～11 月 9 日(金)	29	23

また、オープンクラス・ウィーク期間外に公開の申し出があった以下の授業について、オープンクラスが実施された。

実施日	科目名	担当教員
12 月 20 日（水）	「情報教育」	現代人間学部　心理学科　神月　紀輔教授

授業内容：小中学生のネットいじめの現状や啓発活動、中学生対象の SNS カウンセリングの実際について、滋賀県大津市市民局いじめ対策推進室の職員の方にお話しいただいた。

2.現状と今後の課題

本年度のオープンクラスは前期と後期の両方で実施し、参加者コメントシートの提出は 79 であった。昨年度後期に 1 回のみ実施したオープンクラスでは 29 であったことと比すると、昨年度の約 2.5 倍の参加者となり、より活発に参観が行われたといえる。本学のオープンクラスは、受講生が極端に少ない場合などの特例を除いてほとんどすべての授業を公開し、教員・学生に対しても都合のよいときに参観できるようにしているところに特色がある。その良さを活かされた取り組みとなっていると思われる。実施時期については前期・後期の両時期で 2 回開催することが望ましい。

オープンクラスは参加するものにとって自分の学習評価・方法等を研鑽する重要な機会であるが、同時に参観された教員にとっても、自身の学習評価・方法を再点検とする機会となる。そのためにも現在行っている実施側と参観側の双方にコメントを提出願い、意見等を交換し合う方法が今後も継続していくことが必要と思われる。自身の授業評価、学生による授業評価に加え、教員同士による授業評価は授業のさらなる改善をしていくための大きな力となるであろう。

今後は、オープンクラスを期間の延長や期間を定めず通年で行うことや、たとえば学生評価の高い授業をいくつか選定し「研究授業」として実施し授業終了後にその授業の振り返りを研修として行うなどの、さらなる取り組みの工夫を行い、教員相互の授業参観を活発にしていく検討が必要と思われる。

文責:　佐藤　純　（現代人間学部　福祉生活デザイン学科　FD 委員）

Ⅳ　2018（平成 30）年度　ＦＤ研修会　実施報告

1. 実施概要

2018（平成 30）年度は FD 研修会として以下の研修会を実施した。

内容・テーマ：「アクティブラーニングのすすめ（manaba と respon を利用して)」

日時：2018（平成 30）年 8 月 1 日(水)　11:00～12:10

場所：ユージニア館 3 階大講義室

講師：神月　紀輔 教授（現代人間学部こども教育学科教授）

コーディネーター：徳と知教育センター　吉田 智子 教授

参加者：42 名（教員 35 名　職員 7 名）

概要：講演に先立ち、コーディネーターの吉田智子教授より、学部授業の「ノートルダム学」で respon を使用して実施したクイズの例が、実際の画面の様子を示して紹介された。

神月教授の講演では、大学での主体的な学びを実現するためには、学生自身が自らの目的を設定し自己評価を行うことが重要であると強調され、それを実現するためのツールとして manaba、respon が有効であることが述べられた。また、神月教授が自身の授業で実施されている、manaba の機能を利用したグループ活動、respon を使用した授業の振り返りの例を紹介しつつ、活用の方法やポイントが提示された。参加者は持参したスマートフォンやタブレットを使用し、コメント投稿などの機能を体験した。

なお、講師による「講演概要」は、次のとおりである。

「学習者が能動的に学ぶことができる授業運営、つまりアクティブラーニングを取り入れた授業が、大学においても推奨されています。そのためには様々な手法が用いられていますが、本学では、2017 年度から導入している manaba と respon を、アクティブラーニングのために活用できます。今回の FD 研修では、manaba と respon を積極的に活用した授業を行われている、神月紀輔先生から、manaba のプロジェクトを利用したグループ活動、 respon を利用した毎回の授業の振り返りなど、活用の方法やポイントを紹介していただきます。すでに manaba や respon を活用されている先生方にも、これから利用したいと思っている先生方にも有益な内容を予定しています。」

	学長 副学長	人間文化学部		現代人間学部			生活福祉文化学部	徳と知教育センター	事務職員	計
		英語英文学科	人間文化学科	福祉生活デザイン学科	心理学科	子ども教育学科				
参加者数	2	10	7	9	13	13	1	1	6	62

（在籍教員数（専任、特任、嘱託）：72）

2. 現状と今後の課題

2018（平成 30）年度は FD 研修会として、講師に本学の神月紀輔先生（現代人間学部こども教育学科教授）に、「アクティブラーニングのすすめ（manaba と respon を利用して)」というテーマでご講演いただいた。manaba と respon は、2017（平成 29）年度から本学が導入した LMS（学習管理システム：Learning Management System）の名称である。

62 名の参加者があり、アンケートを提出した 50 名のうち 35 名（70.0%）が「大変有意義であった」と答え、14 名（28.0%）が「有意義であった」と答え、それ以外の回答は 1 名（2%）という、大変に満足度の高い研修会となった。

manaba や respon をどう活用すれば、学生が主体的に学べるかが具体的かつ実践的に示されたことや、主体的な学びには教員が学生に対し授業の最初にゴールを示すことが必要だという、教育の本質に関わる研修であったことが、この高評価につながったと考える。さらに、今年度は導入 2 年目となった manaba や respon を使うことの教員側と学生側の双方のメリットが明確に示されたことで、研修を受けながら、自分の授業での活用のヒントを得た教員も多かったことが、アンケートの記述から読み取れた。講義内容が充実しており有意義な内容であったことから、研修の時間が今回の 1 時間 10 分よりも長くすべきだったという意見もあった。（なお、同日のこの研修会の前後に、教務課および徳と知教育センターにより、情報演習室で manaba と respon の実習セミナーも開かれた。）

今回の研修会を振り返り、教職員が興味を持っているテーマであれば、研修参加者の満足度は極めて高くなることがわかった。しかし、研修を受けた時は「新しい教育用ツール（今回の場合は manaba や respon）を使ってみよう！」と思っても、忙しい日々の中で後回しになってしまうことも多いと思う。そこで、研修後に教員各自がそれぞれの目標を設定し実践に生かすことが、今後の課題である。

文責：吉田　智子（人間文化学部　人間文化学科　FD 委員）

Ⅴ 2018 (平成 30) 年度　全学 FD 教員研修会実施報告

1.　実施概要

今年度の研修会は「学習評価の基礎～教員と学生にとって魅力ある授業を展開するために」をテーマに、大阪大学全学教育推進機構 浦田悠 特任講師による講演が行われた。

講演では、授業の学習目標に応じた評価方法の設計を目的に、学習評価の意義や適切な評価方法、試験やレポートにおける不正の防止等について、ワークを交えながらわかりやすく述べられた。

日　時：2019（平成 31）年 2 月 13 日(水)　13：00～14：30

場　所：ユージニア館　E401 教室

テーマ:「学習評価の基礎～教員と学生にとって魅力ある授業を展開するために」

講　師：大阪大学全学教育推進機構　浦田　悠　特任講師

出席者数：56 名（教員 51 名、職員 5 名）

出席者の内訳：

学長	人間文化学部		現代人間学部			徳と知教育センター	教員出席者計	教員（含学長）現員数	参加率	職員
	英語英文	人間文化	福祉生活デザイン	心理学科	こども教育					
1	7	8	11	10	13	1	51	73	71.2%	5

2.現状と今後の課題

今年度の全学 FD 教員研修会は大阪大学全学教育推進機構・浦田悠特任講師をお迎えして、「学習評価の基礎～教員と学生にとって魅力ある授業を展開するために」というタイトルでご講演いただいた。51 名の教員の参加者があり、34.3%が「大変有意義であった」、63.6%が「有意義であった」と回答しており、大変満足度の高い研修会となった。自由記述でも、「基礎的な内容であったがとても学びになった」、「具体的で参考になった」という回答も多く見られた。研修終了後に今年度のシラバスの修正が可能であれば修正したいという申し出が複数の教員からあるなど、すぐさま研修の効果が見られたことも特筆に値する。

授業評価は学生にとっても大きな関心をもつポイントであり、「なにをいつ誰がどのように評価するか」ということが学生の学習に強い影響を与えるものでもある。これらの基本的な知識やその具体的な方法を学ぶことは、今後の本学の授業改善に大きな影響を与えていくであろう。

ともすると FD 研修ではアクティブラーニングなどの授業方法に関するテーマが取り上げられやすいが、学習評価などの授業の設計に関する基礎的な学びのニーズも大きいと思われ、両面のテーマを取り上げることが今後も必要となろう。

さらに学習への意欲が十分ではない学生に対し、どのようにその意欲を喚起するかについても経年的に取り組んでいるものの引き続いて重要な課題であると思われる。

文責:佐藤　純　（現代人間学部　福祉生活デザイン学科　FD 委員）

Ⅵ　大学コンソーシアム京都　第 24 回 FD フォーラム第５分科会　実施報告

≪テーマ≫

「特別支援学校教員養成における主体的な学修と地域連携の在り方について 」

≪報　告　者≫

小谷　裕実　　（京都教育大学　教育学部　教授）

丹羽　登　　（関西学院大学　教育学部　教授）

金森　克浩　　（日本福祉大学　スポーツ科学部　教授）

≪コーディネーター≫

太田　容次　　（京都ノートルダム女子大学　現代人間学部　准教授）

特別支援教育の推進により、インクルーシブ教育システムの構築を目指している我が国において、特別支援教育の専門性を有する教員の養成は急務である。特に特別支援学校教諭免許状取得には学校現場での体験が重要である。

そこで、設置者や規模、歴史など様々な背景の大学における「教職の実際を体験させる機会」と「学生の主体的な学修」に関して参会者と共に考えたい。

企画趣旨説明及び分科会での討議の柱

第５分科会の開会にあたり、コーディネーターの太田より以下の点から企画趣旨説明を実施した。

・幼稚園・小学校・中学校・高等学校などすべての学校種において特別支援教育を推進し、インクルーシブ教育システムの構築を目指している我が国において、特別支援学校教諭免許状を保有する教員の養成は急務である。特別支援学校等の教育現場の体験充実が、大学での主体的な学修に欠かせないと考えられるが、教育実習先等の確保をはじめ地域との連携などで課題も大きい。

・そこで、国立教員養成大学や私立大学など設置者や規模、歴史など様々な背景がある大学における「教職の実際を体験させる機会」と「学生の主体的な学修」に関する情報提供をもとに、参会者と共に考えたい。

各報告者からの話題提供と分科会の討議の柱として、中央教育審議会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成 24 年 07 月 23 日）及び同「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い, 高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」（平成 27 年 12 月 21 日）に示された課題等から、大きく３つの点を示した。

主体的な学修と体験

・「教員となる際に必要な最低限の基礎的･基盤的な学修」の取り組み

・学生に自らの教員としての適性を考えさせる機会の取り組み

・学校現場や教職を体験させる機会の取り組み

教職課程の質保証･向上の取り組み

・学校現場の要望に柔軟に対応

・大学等と教育委員会の連携の取り組み

・キャリアステージに応じた学びや成長を支える取り組み

・養成･研修を通した教員の育成指標を教育委員会と大学等が協働作成の取り組み

ダイバーシティの視点

・特別支援教育，外国語教育，道徳など新たな教育課題や，アクティブ･ラーニングの視点からの授業改善などに対応した教員養成の取り組み

さらに、参会者のコミュニケーションを活発に行うために、意見や質問等をリアルタイムに収集するツール（クリッカー）として、Google Classroom[1] を利用した。本分科会専用の Classroom を設定し、参会者からの質問や意見の受付に使用した。開始当初にログイン手順を示し、報告者ごとの質問についても質問や意見を受け付けた。また、スマホ等の使用が困難な参会者には、紙によるコメントカードを受け付けた。

話題提供

最初に、小谷　裕実先生（京都教育大学教育学部　教授・同附属特別支援学校　校長）から、国立教員養成大学での特別支援学校教諭養成に関する話題提供をいただいた。現在、併任されている附属特別支援学校で校長としての立場からも話題提供があった。

次に、丹羽　登先生（関西学院大学教育学部　教授）から、大規模私立大学における、特別支援学校教諭養成に関わる話題提供があった。

最後に、金森　克浩先生（日本福祉大学スポーツ科学部　教授）から、2017 年に新設されたスポーツ科学部における特別支援学校教諭養成に関する話題提供があった。

話題提供の詳細は、『第 24 回 FD フォーラム　報告集』[2] に示す通りである。

総合討論の概要

総合討論では、参会者からのクリッカーやコメントカードによる質問や意見をもとに、討論を行った。

主体的な学修関連では、教職員の負担として、大規模校ならではの広域にわたる教育実習先訪問の教員の負担の大きさや、障害等のニーズのある学生への対応、学生と保護者双方への対応などが示された。特に、近年、自らの障害や特性に関する認知や理解が広がり、合理的な配慮を求める学生が多くなった一方で、自らの障害や特性などが自己理解できていないことから、自己と他者の評価にギャップが生じ、結果として自己実現が非常に困難となるケースが多い問題、さらに学生対応に加え、保護者対応が求められるケースが増えている問題などが話題提供された。

また、京都ノートルダム女子大学と日本福祉大学との共同研究によるネットワークを使った学生と教職員の専門性向上の実践研究について話題提供があった。実際に研究に参加している学生から本分科会協力者として、その取り組みのエピソードや感想、今後の課題・期待の紹介があった。

さらに、ボランティアや介護等体験、教育実習を含めた地域連携を進める上では、地域の教育委員会レベルでのローカルルールが様々であり、特に私立大学在学生の特別支援学校の教育実習受け入れ校が不足している問題などが共有された。

教職課程の質向上関連に関しては、大学の組織としての教職課程へのサポートの重要性が挙げられた。実習支援室や実地教育委員会、教職センターなど組織の名称は大学により異なるが、専任者による組織の編成により、直接的な体験の支援がスムーズになり、実務型教員と職員の連携が効率的に進み、教員や職員個人に依存しない組織としての支援が可能になるとのことであった。その際

に、主体的な学修の推進のためにも、実務型教員の持つ実践知や人脈の活用が重要であるとの共通した意見がみられた。

ダイバーシティの視点からは、発達障害やLGBTを含む多様な学生のニーズに対してカリキュラムポリシーでの位置付けと学内での理解の問題が挙げられた。具体的には、特別支援学校の教職課程履修者のニーズが多様であり、特別支援教育そのものやその対象者の障害等の実態には興味があるが、特別支援学校の教員になる希望は少ない実態があるとのことであった。また、学生の多様なニーズに対して、全教職員の理解を得るのが困難との問題も示された。

以上のように、各報告者からの実際の取り組みに対して、参会者から多くの意見が出されたことで、参会者の本分科会のテーマへの関心と問題意識の高さが明らかになった。特に、クリッカーが有効に活用されたことで、参会者の疑問や意見が多く出されたと考えられ、活発な討論を多面的に行うことができた。その一方で、本分科会の目的である大学での主体的な学修と教育現場や教職の体験等について、附属特別支援学校を設置している国立大学と、設置していない私立大学での体験のあり方についての総合討論の時間を十分に確保できず残念であった。別の機会の課題としたい。

[1] https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/

[2] http://www.consortium.or.jp/project/fd/forum　(2019.7公開予定)

文責：　太田　容次　(現代人間学部　こども教育学科　FD委員)

2018（平成 30）年度 FD 委員会構成員

委員長	向　山	泰　代	（現代人間学部　心理学科）
委　員	米　崎	啓　和	（人間文化学部　英語英文学科）
委　員	吉　田	智　子	（人間文化学部　人間文化学科 / 徳と知教育センター）
委　員	太　田	容　次	（現代人間学部　こども教育学科）
委　員	佐　藤	純	（現代人間学部　福祉生活デザイン学科）
委　員	谷	愛　子	（研究・情報推進課課長）
事務局	研究・情報推進課		

京都ノートルダム女子大学
2018（平成 30）年度　FD 報告書

2019（令和元）年 5 月 25 日発行

編　　集　　京都ノートルダム女子大学
FD 委員会（事務局：研究・情報推進課）

発　　行　　京都ノートルダム女子大学
〒606-0847　京都市左京区下鴨南野々神町 1 番地
TEL（075）781-1173　　FAX（075）706-3707
ホームページ　http://www.notredame.ac.jp

京都ノートルダム女子大学